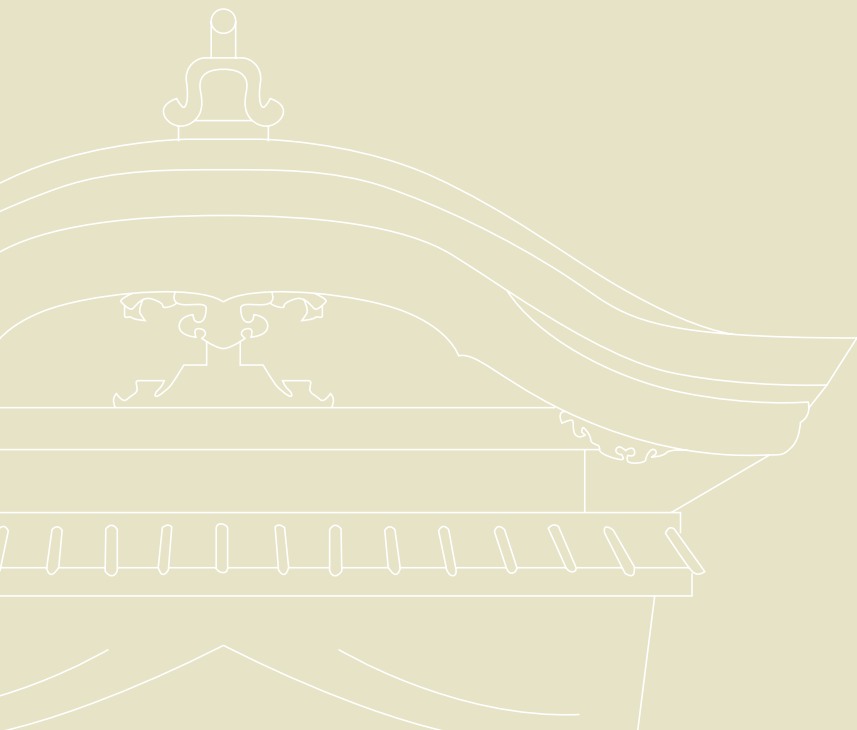


長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
市民と連携した教育実践
2005～2015



長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
市民と連携した教育実践
2005～2015

ごあいさつ

長崎歴史文化博物館
館長 大堀 哲

現代の博物館には、文化財の保存・継承、創造、交流、発信の拠点のみならず、市民の生涯学習・国際交流・ボランティア活動や観光の拠点、文化芸術活動、社交の場など多様な機能・役割が要請されております。そのような要請に応えるためには、私たちは地域住民、市民とともに新しい価値を創造していくという姿勢が重要だと思えます。博物館は、地域や市民と離れて単独で存在できないからであります。博物館は、市民と手を携えて、ともに高め合う真剣勝負の場であることを再確認しておきたいと思えます。

長崎歴史文化博物館は、開館以来10年間、博物館のすべての活動は”教育“に収斂されるという考え方を基本に置き、多彩な教育プログラムを開発・実施してきました。それは教育担当研究員だけで完結するのではなく、可能な限り市民や団体等と連携し、プログラムの企画の段階からかわりを持っていただくように留意してきました。そのことは、これまで刊行しました「長崎歴史文化博物館教育実践報告書」におけるアウトリーチ活動やボランティア活動などでご理解いただけたと思えます。

このたびの教育実践報告書は、この「市民との教育連携の実践」を具体的にとりまとめたものであり、この10年間にいかに市民、そして多くの団体、機関等との連携に努めたかをご理解いただけるものと存じます。そこには教育担当研究員が中心になりながらも市民や団体、機関等の人たちとともに知恵を出し合い、絶えず柔軟な発想によって多様な試みをしようというチャレンジ精神がありました。

文化芸術団体との連携事業のなかで音楽団体との連携プログラムは、一般市民から大変好評を博してきました。これはまさに地域博物館としての当博物館が地域の人々や文化団体等と連携して実施した結果であり、市民に親しんで利用される生き生きとした施設として市民の生活のなかにしっかり位置づいてきたことを示していると思えます。また長崎の活発な伝統文化活動団体との連携プログラムも、当博物館の継続的な活動として根づいてきており、特に四季のある美しい風土と自然を愛する心を育む生け花の展示や、茶の湯文化の継承を図る茶道体験のプログラムは、日本人としての心を取り戻すうえからも一層の充実を図りたいプログラムであります。

また、市民団体との連携事業では、昔遊びや食文化体験など専門技術を発揮して子どもたちの指導に当たっていただく活動のほか、長崎県地球温暖化防止活動推進センターとの連携による“エコ学ば!”も重要な事業だと考えております。まだまだプログラム内容に改善の余地はありますが、近年の環境保全の重要性の観点から、地球温暖化が進行するなかで自然との調和や自然保護思想を醸成するため、当博物館としては推進センターとの連携を一層推進していきたいと思えます。

いずれにしましても博物館の事業には、あらかじめ定められたカリキュラムがあるわけではありません。したがって地域社会や市民により良いプログラムを提供するためには当博物館の持つ特性を絶えず吟味しながら、それをより生かした効果的な活動が可能になるよう、今後とも多くの市民や団体、機関等との連携にさらなるウエイトを置いた活動を展開して参りたいと考えております。

最後に本報告書に対する忌憚のない、ご意見を賜れば幸いに存じます。



こどもたちによる打ち水体験



長崎節木塾によるハタづくり教室



OMURA室内合奏団によるコンサート



長崎県新演奏家協会によるコンサート



聖福寺大雄宝殿修復協会との連携事業「聖福寺見学会」の様子



れきぶんこども茶道クラブの様子



長崎西高校書道部によるパフォーマンス



hミュージックによるお正月恒例の初弾

目次

地域と連携した教育実践	01
1. 文化芸術団体との連携	
(1) ミュージアムコンサート ーOMURA室内合奏団、長崎県新演奏家協会、レガリーノとの連携ー	05
(2) いけばな展示 ー小原流長崎支部との連携ー	14
(3) 茶道体験 ー表千家同門会長崎県支部との連携ー	18
(4) 煎茶の楽しみ ー文人流知足会との連携ー	22
2. 市民団体との連携	
(1) 昔あそび ー長崎節木塾との連携ー	27
(2) 食文化体験 ー長崎町人町プロジェクトとの連携ー	31
(3) エコ学ぼ! ー長崎県地球温暖化防止活動推進センター(NCCCA)との連携ー	35
(4) れきふんのお雛祭り・特別展「我が名は鶴亭」関連企画 ー万寿山聖福寺大雄宝殿修復協力会との連携ー	39
3. 近隣自治体との連携	
(1) 奉行所夏まつり・奉行所もちつき ー上町自治会との連携ー	45
4. 学校との連携	
(1) 琴の演奏 ーhミュージック・創成館高等学校琴部、鎮西学院高等学校箏曲同好会との連携ー	51
(2) 書道 ー長崎県立長崎西高等学校との連携ー	54

地域と連携した教育実践

長崎歴史文化博物館
教育普及グループリーダー 竹内 有理

はじめに

長崎歴史文化博物館では開館当初より教育活動を運営の中心に据えて様々な事業を展開してきた。その取り組みをテーマごとに総括し、体系化を試みたのが教育実践報告書である。これまでに、学校との連携、地域との連携（ボランティア）、アウトリーチ活動の3つのテーマで実践報告書を刊行してきた。4冊目となる今回は、地域の様々な団体と連携して取り組んできた教育実践の事例をまとめたものである。ここに紹介した事例は、2005年の開館から10年間に地域博物館として地域の様々な団体や個人と関係性を築いてきたことにより実現した成果の結晶でもある。

地域連携型教育活動へ

博物館における教育活動はいまや当たり前のこととなり、多くの館で様々な教育活動が繰り広げられている。学校で来館した子どもたちへの対応、親子向けのプログラム、成人向けの生涯学習活動などは、以前から多くの博物館で行われてきた。それに対し、本報告書で取り上げている教育活動は、それらとは少し性格の異なるものであり、従来の「教育」の概念を大きく超えている。博物館における教育活動の概念そのものが時代とともに変化してきているのは世界的な傾向でもある。学びの質に重点を置く教育活動がある一方で、今日の博物館には社会性や地域との関わり、まちづくりや人材育成に関わる取り組みも求められてきている。本報告書ではそれらの取り組みも含めて博物館の教育活動と捉えている。あえて名前を付けるとしたら「地域連携型教育活動」とでもいえるかもしれない。

地域連携型教育活動では、博物館とそれを利用する市民との関係が従来と大きく変わっているのが特徴といえる。例えば、博物館が展覧会を企画し、市民がそれを観に来る。あるいは学芸員が講師となり講座を実施し、市民が受講する。これは従来からあるオーソドックスな博物館と市民の関係のパターンであり、今も続けられている。ここでは学芸員は「教える人」、市民は「教えられる人」という図式になり、両者の関係は直線的（一方方向）なものとなる。ここでは市民は博物館が提供するサービスを楽しむお客様として位置づけられる。

これに対し、地域連携型教育活動では、博物館と市民は対等な立場になる。つまり市民自らがサービスを提供する側になるのである。博物館と市民が協働して事業を企画し、サービスを提供する。このとき、市民が主体となり講師を務めるなど、博物館はむしろ調整役として事業をサポートする立場になることも多い。

このような博物館と市民との関係の変化が博物館における教育活動を大きく変えたといってもいいだろう。

地域連携によって何が変わるか

当館の教育活動は市民や地域で活動している様々な団体の協力なくしては成り立たないほど、様々な団体や個人に支えられている。学芸員はそれぞれに専門性を持っているのは

もちろんだが、それとは異なる専門知識や技術を持つ人々にサービスの提供者として参画してもらうことにより、博物館職員だけでは成し得ない多様な活動が展開できるようになる。音楽家、茶道、華道、食文化、まちづくり、環境活動家など、様々な分野の専門家やそれらに携わる団体と協力してイベントを実施することにより、博物館の活動の幅が広がり、様々な人々を惹きつけることができる。利用者の数を増やすことと、利用者の層（年代、興味関心、知識のレベルが異なる様々な層）を広げることが博物館の大きな課題となっているなかで、このような取り組みはそれに応える一つの方法でもある。

博物館では様々なイベントをホームページやSNS、チラシ、マスコミ等を通じて宣伝しているが、イベントの担い手である市民が家族や知人に直接呼びかけて口コミで広がっていくケースも多い。広報、集客の面でも市民団体と手を組んで行うことの効果は大きい。

一方、博物館のイベントに携わる市民団体にとっても博物館で活動することの意味が必要となってくる。不特定多数の様々な人々が集まる博物館で活動することによって、自分たちの活動のPRになる、発表の場ができる、あるいは社会貢献につながる、子どもたちに文化を継承できるなど何らかの理由があるからこそ連携が成り立つのである。

市民との連携事業をうまく進めていくには、いくつかの留意点があることもこれまでの活動を通してわかってきた。一つは、目的を共有すること。何のために誰に対してそれを行うのかを明確にし、それを両者が納得して取り組むこと。二つ目は、互いをリスペクトし対等な関係で取り組むこと。お互いの持っている技術、知識、設備などを出し合って協働して取り組むことが肝要である。博物館が市民団体に対して丸投げで実施するようではいいものではない。三つ目は、いいものを作るには、博物館と市民団体双方に情熱や熱意が必要である。情熱や熱意を持ち続けることは事業の継続性と安定性にもつながっていく。

これらのことに留意しながら取り組めば、両者の良い関係が保たれ、質の高いサービスを提供することができるのではないだろうか。

報告書の構成

本報告書では教育活動における市民との連携事例を以下の4つのカテゴリーに分けて紹介している。(1)文化芸術団体、(2)市民団体、(3)自治会、(4)学校の4つに分類した。(1)文化芸術団体との連携では、地域を拠点に活動している県内唯一のプロのオーケストラであるOMURA室内合奏団と長崎県出身の音楽家の団体である長崎県新演奏家協会、親子で楽しめるバリアフリーの音楽活動を推進しているレガリーノと連携したコンサート事業を紹介している。また表千家同門会長崎県支部と連携して行っている子ども向けの茶道教室、小原流長崎支部と連携して行った生け花展示、文人流知足会と連携した煎茶を楽しむ会の事業を紹介している。(2)市民団体との連携では、長崎節木塾と連携した長崎伝統のハタ(凧)づくりやむかし遊びの事例、環境問題に取り組むNPO・長崎県地球温暖化防止推進センターと連携した「エコ学ぼ!」という事業、長崎町人町プロジェクトと連携した食文化体験の講座、聖福寺大雄宝殿修復協力会と連携したひな祭りイベントと企画展関連イベントの事例を紹介している。(3)近隣自治会との連携では、博物館と隣接する自治会である上町自治会と連携した奉行所夏祭りと奉行所もちつきについて紹介している。(4)学校との連携では、正月の恒例イベントとなっている琴の演奏で協力していただいている諫早市にある鎮西学院高等学校箏曲同好会と創成館高等学校琴部との連携、書初めの指導とパフォーマンス書道を披露してもらっている長崎西高等学校書道部との連携の取り組みを紹介している。

最後に博物館の活動に快くまた真摯に協力してくださっているこれらの団体、関係者のみなさまにこの場を借りて改めて感謝したい。またここには紹介できなかったが、その他多くの個人、団体のみなさまにも博物館の活動を様々な面で支援していただいていることを付け加えておく。地域の方々と連携した一つ一つの活動の輪が広がることで、博物館が地域づくりの拠点としての役割を少しでも果たせたら嬉しい限りである。



1. 文化芸術団体との連携

1. ミュージアムコンサート

OMURA室内合奏団、
長崎県新演奏家協会・レガリーノとの連携

長崎歴史文化博物館
教育普及グループ 一瀬 勇士

1. はじめに

開館以来、当館では企画展の関連イベントやながさき音楽祭の関連事業としてさまざまな分野のコンサートを定期的に実施してきた。

当館のミュージアムコンサートの取り組みの目的としては、地域の音楽団体に活動の場を提供し、地域の人々に質の高い音楽演奏に触れる機会を提供することにより、地域の音楽文化の振興と博物館を拠点とした文化振興に寄与することを主な目的としている。

当館では、これまで不定期で実施していたミュージアムコンサートを2009年度より正式に「れきぶんミュージアムコンサート」として位置づけ、県内在住及び県出身者で構成し、長崎県内で精力的に音楽活動を行っていた長崎県新演奏家協会とOMURA室内合奏団の2団体に出演・協力を依頼することとなった。

初年度は、交互に5本ずつと毎月1回の頻度でミュージアムコンサートを実施し、企画展や季節の催事に連動した内容でプログラムを構成してもらった結果、多くの来館者に親しまれる企画となった。また、2012年度以降からは「親子で聴く音楽会 レガリーノ」にも参加していただき、ユニークな演奏会や子ども向けの楽曲が人気となっており、親子層の取り込みに貢献している。

2. 連携団体の紹介とコンサート実績

(1) OMURA 室内合奏団との連携

OMURA室内合奏団は、シーハットおおむらを拠点に活動するプロの室内オーケストラを主体とする音楽団体である。2004年4月の正式発足以来、県内各地でコンサートを展開し、2005年には韓国において初の海外公演を成功させている。2008年5月には世界的チェリスト、アントニオ・メネセスとの共演。近年では、学校を対象にした「アウトリーチコンサート」や「ブラスクリニック」などの青少年育成事業にも精力的に取り組んでおり、こうした取り組みが評価され、2009年には第25回長崎県地域文化章を受章。翌年には地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞するなど、地域に根ざした音楽活動が高く評価されている。



開催日	出演者	参加者数
2009年7月18日(土)	濱砂由美子(フルート)、太田さあり(ヴァイオリン)、川口千穂(ヴィオラ)、下田直子(チェロ)	68名
2009年9月21日(月・祝)	菅家恭子(ヴァイオリン)、川口千穂(ヴァイオリン)、池田文子(ヴィオラ)、光田聰子(チェロ)	60名
2009年11月23日(月・祝)	中西弾(ヴァイオリン)、齊藤享(ヴァイオリン)、長嶋拓生(ヴィオラ)、光田聰子(チェロ)	53名
2010年1月23日(土)	菅家恭子(ヴァイオリン)、川口千穂(ヴァイオリン)、池田文子(ヴィオラ)、光田聰子(チェロ)	40名
2010年3月27日(土)	中西弾(ヴァイオリン)、齊藤享(ヴァイオリン)、長嶋拓生(ヴィオラ)、田辺清士(チェロ)、濱砂由美子(フルート)、山田芳美(クラリネット)	70名
2010年7月24日(土)	永留結花(フルート)、齊藤享(ヴァイオリン)、長嶋拓生(ヴィオラ)、田辺清士(チェロ)、亀子政孝(コントラバス)	76名
2010年11月13日(土)	前田純美加(ヴァイオリン)、浦知知佳(ヴァイオリン)、太田さあり(ヴァイオリン)、下田直子(チェロ)、光田聰子(チェロ)、永留結花(フルート)、坂口直子(クラリネット)、池田祐希(ファゴット)	86名
2011年2月26日(土)	中西弾(ヴァイオリン)、前田純美加(ヴァイオリン)、小林知弘(ヴィオラ)、田辺清士(チェロ)	101名
2011年4月30日(土)	松浦知佳(ヴァイオリン)、永留結花(フルート)、池田祐希(ファゴット)、田辺清士(チェロ)	82名
2011年7月16日(土)	菅家恭子(第1ヴァイオリン)、太田さあり(第2ヴァイオリン)、川口千穂(ヴィオラ)、光田聰子(チェロ)	60名
2011年11月3日(木・祝)	齊藤享(ヴァイオリン)、太田さあり(ヴァイオリン)、池田文子(ヴィオラ)、光田聰子(チェロ) ※長崎県新演奏家協会との共演	137名
2012年5月4日(金・祝)	山田芳美(クラリネット)、種口敬明(ファゴット)、濱砂由美子(フルート)	65名
2013年5月4日(土)	齊藤享(ヴァイオリン)、太田さあり(ヴァイオリン)、池田文子(ヴィオラ)、田辺清市(チェロ)	124名
2013年11月3日(日)	濱砂由美子(フルート)、池田祐希(ファゴット)、山道由佳(ピアノ)	57名

◎時間:16:30~(2009年~2011年)/16:00~(2012年~2013年) ※約45分

◎場所:1階エントランスホール

(2) 長崎県新演奏家協会との連携

長崎県クラシック音楽家の登竜門として開催される「長崎県新人演奏会」オーディションにて選出された会員により構成される。長崎県の演奏家の育成や支援に30年近くにわたって貢献を果たすなど、音楽を通して地元の文化向上に努めると共に青少年情操教育の一端も担っている。また、年に数回、国内外で活躍中の指揮者、演奏家を招聘、公開レッスン及びセミナーを実施しながら研鑽を積んでいる。2012年に長崎県民表彰を受賞。



開催日	出演者	参加者数
2009年6月20日(土)	星野恵利(ボーカル)、牧野由美(ボーカル) 後藤美樹(ピアノ)	33名
2009年8月29日(土)	垣内はるか(ソプラノ)、古賀玲子(メゾソプラノ) 大塚裕子(ピアノ)	83名
2009年10月31日(土)	岩佐美佳(ピアノ)、吉田麻衣子(ピアノ)、 長島由紀子(ソプラノ)	62名
2009年12月26日(土)	畑中紗知子(ソプラノ)、谷口菜穂(ピアノ)、 後藤美樹(ピアノ)	35名
2010年2月27日(土)	長島由紀子(ソプラノ)、畑中幸子(ソプラノ) 原さとみ(ソプラノ)、森山達郎(テノール) 後藤美樹(ピアノ)	60名
2010年6月26日(土)	林美希(ピアノ)、吉田麻衣子(ピアノ)、 原さとみ(ソプラノ)	65名
2010年9月23日(木・祝)	高橋智子(ソプラノ)、後藤美樹(ピアノ)	58名
2011年3月26日(土)	原さとみ(ソプラノ)、松本裕子(メゾソプラノ) 後藤美樹(ピアノ)	64名
2011年11月3日(木・祝)	高橋智子(ソプラノ)、田中絵里(メゾソプラノ)、 山口亜依子(ピアノ)、松田洋子(ピアノ)、 岩佐美佳(ピアノ) ※OMURA室内合奏団との共演	137名
2011年12月24日(土)	垣内永圭(ソプラノ)、森山達郎(テノール)、 大塚裕子(ピアノ)	54名
2012年3月24日(土)	長島由紀子(ソプラノ)、江口友規子(ピアノ)	64名

開催日	出演者	参加者数
2012年9月8日(土)	辻真由美(ソプラノ)、中村美貴(ソプラノ) 後藤美樹(ピアノ)	90名
2012年11月3日(土)	森山達郎(テノール)、森美春(ピアノ)、 吉田真探(ピアノ)	68名
2013年1月12日(土)	尼崎裕子、上野広恵、浦田暢子(ソプラノ) 森山達郎(テノール)、後藤美樹、辻田千尋、 森美春(ピアノ)	68名
2013年9月14日(土)	小川智子、大杉仁美、松永かおる(ソプラノ)、 江口友規子、吉田真深(ピアノ)	45名
2013年12月21日(土)	後藤美樹、辻田千尋、森美春(ピアノ)、 尼崎裕子、上野広恵、加藤初美(ソプラノ)、 森山達郎、田中暁人(テノール)、 石塚啓(バリトン)	35名
2014年1月11日(土)	長島由紀子(ソプラノ)、大塚裕子、松田洋子、 後藤美樹(ピアノ)	83名
2014年2月1日(土)	大杉仁美、松永かおる(ソプラノ)、 後藤美樹、吉田真深(ピアノ)	83名
2014年9月21日(日)	小川智子、大杉仁美(ソプラノ)、 柳美代子(ピアノ)	47名
2014年11月3日(月・祝)	鍵本美陽(ヴァイオリン)、松田洋子(ピアノ)、 大塚裕子(ピアノ)	87名
2015年1月12日(月・祝)	尼崎裕子、加藤初実(ソプラノ)、 松本裕子(メゾソプラノ)、森山達郎(テノール)、 後藤美樹(ピアノ)	117名
2015年2月21日(土)	尼崎裕子、上野広恵、加藤初実(ソプラノ)、 松本裕子(メゾソプラノ)、森山達郎(テノール)、 鍵本美陽(ヴァイオリン)、 後藤美樹、柳美代子(ピアノ)	73名
2015年6月20日(土)	長島由紀子、辻真由美(ソプラノ)、 宮崎千鶴子(ピアノ)	140名
2015年9月26日(土)	植村菜奈(ソプラノ)、森山達郎(テノール)、 岩崎梓(フルート)、後藤美樹、山本理恵(ピアノ)	72名
2015年10月31日(土)	尼崎裕子、原さとみ(ソプラノ)、 松本裕子(メゾソプラノ)、後藤美樹(ピアノ)	93名
2016年1月11日(月・祝)	辻真由美、大杉仁美(ソプラノ)、 鍵本美陽(ヴァイオリン)、藤原みか(フルート)、 後藤美樹、西田美香子、宮崎千鶴子(ピアノ)、 賛助出演:みのりバレエスタジオ	152名

◎時間:16:30~(2009年~2011年)/16:00~(2012年~2013年)/15:30~(2014年~2015) ※約45分

◎場所:1階エントランスホール

(3) 親子で聴く音楽会 レガリーノとの連携

2006年の発足以来、「子どもたちへ生の音楽を届けたい」という一貫した姿勢は、地域の子育て支援や福祉支援に大きな貢献を果たしている。イタリア語で「小さな贈りもの」を意味するレガリーノは、子どもから大人まで一緒になって楽しめる音楽を提供するなど、「いつでも、どこでも、誰もが音楽に触れられる」環境づくりに寄与している音楽ボランティア団体である。



開催日	出演者	参加者数
2012年7月16日(月・祝)	内田誠(ピアノ)、北原公介(ボンゴ)、岡珠子・中村浩美(ソプラノ)	170名
2013年7月28日(日)	柴田健一(トロンボーン)、尾口陽軌(ギター)	122名
2014年7月27日(日)	岡珠子、中村浩美(ソプラノ)、平戸健吉(ギター)、川里友子(フルート)、安達理砂、馬場知子(ピアノ)、北原公介(ボンゴ)、	172名
2015年7月19日(日)	〈レガリーノ〉 岡珠子、中村浩美(ソプラノ)、川里友子(フルート)、安達理砂(ピアノ) 〈Tues Tone〉※客演 佐々木茂人(ピアノ)、尼子昭雄(ベース)、中島伸明(ドラム)	170名

◎時間:16:00~(2012年~2013年)/15:30~(2014年~2015) ※約45分

◎場所:1階エントランスホール

3. 実施内容

近年、当館で実施している「ミュージアムコンサート」は、年間6~7本程度である。当館のコンサートの特徴としては、市民との交流スペースともなっている1階エントランスを活用したロビーコンサートを主体としたもので、企画展と連動したコンサートプログラムやクリスマスコンサート、ニューイヤーコンサートなど季節に合わせた構成を出演団体に依頼している。

2011年の11月3日に実施したコンサートは、開館6周年記念及び「ながさき音楽祭」の関連イベントとし

て、OMURA室内合奏団と長崎県新演奏家協会の演奏家による初のコラボレーションとなった。室内楽と声楽、ピアノの伴奏による豪華な組み合わせを無料で鑑賞できる点が、当館のミュージアムコンサートの良さであると感じている。また、市民の方が気軽にコンサートに参加できる点も魅力の一つとなっている。

定期のミュージアムコンサートではないものの、2015年度に実施した「レ・ローズ バラの展覧会」の関連イベントにおいて、OMURA室内合奏団（フルート・カルテット）に出演していただいた。この時は、有名なナポレオンの戴冠式を引き延ばした絵画の垂れ幕を背景にした企画展示室内で演奏を実施し、会場の雰囲気もあり来館者の満足度も高いものとなった。通常1階のエントランスホールで開催することが多いが、ミュージアムコンサートの新たな試みとして有意義な企画であった。

4. 成果と課題

2009年度から始まった定期のミュージアムコンサート以降、これまでの演奏回数は約50回を超えるまでに至っている。

継続して実施してきた結果、固定のファン層やリピーターを獲得するだけでなく、さまざまな演奏家との連携やネットワークを構築できた点は、博物館の財産にもつながっている。また、プログラムも博物館の企画展や季節にちなんだ構成で、来場者に質の高い音楽と出演者に活動の場を提供できた点は大きな成果だったといえる。

開館当初は、単発で不定期のコンサートが多く、そのたびにチラシを作成するなど職員の手間や広報宣伝も十分行き届くものではなかった。そうした現状を踏まえ、2009年度より定期的に実施することで、博物館におけるミュージアムコンサートの位置づけを明確化し、シリーズ化を図っていくことで、「地域に開かれた博物館」を実現する一つのきっかけとなったことは確かである。

OMURA室内合奏団や長崎県新演奏家協会の全面的な理解と協力のもと、試行錯誤しながら進めてきたミュージアムコンサートであったが、課題も多くあった。

例えば、出演者へ支払う謝礼金やコンサートの時間設定などである。特にOMURA室内合奏団に対しては、プロの音楽家として生計を立てている方もおり、博物館としても無償ボランティアとして依頼することは難しく、最低限の交通費や出演料を予算化し、確保していくことが喫緊の課題であった。

地域市民に質の高い音楽を無償で提供していく一方で、出演者に対しては有償かつ活動の場の提供というジレンマを抱えながらの事業であった。博物館と出演団体の双方が共通の目的や利害関係（ギブ&テイク）が一致しなければミュージアムコンサート事業は成立しないものである。

2014年度以降の定期のミュージアムコンサートからOMURA室内合奏団の出演はないものの、前述のとおり企画展の関連行事としてのつながりの方がむしろ強くなってきている傾向にある。逆に長崎県新演奏家協会への出演依存度がより高まっていることも事実である。

今後の課題としては、当館が所蔵する資料との連動性を高めたコンサートやさまざまなジャンルの演奏家との交流、県内在住の演奏家による音楽セミナーの実施、エントランスホールの積極的な利用促進など音楽を通じた地域との連携の輪を更に拡大し、諏訪の森に音楽が溢れるミュージアムづくりに貢献していきたい。

視覚で感動する展示物と聴覚で感動する音楽の融合

OMURA室内合奏団芸術監督
村嶋 寿深子

音楽に携わる者として、美術館や博物館と疎遠であってはならないとは思いつつも、なかなか足を運ばない日常である。ましてや、博物館といえば、全く縁がないものと決めていた過去を思うに、長崎歴史文化博物館の出現は、過去のイメージを一掃してくれたものだ。建物そのもののユニークさと素晴らしさもさることながら、充実した常設展、企画力溢れる特別展には、その都度感動させられている。また、ミュージアムショップも目が離せないところで、立ち寄る度になにか買って帰ってしまう。殊に特別展に合わせた書籍は見逃せない。

この様な施設の中へ音楽を加えることの一端に、OMURA室内合奏団が参加させていただき、有意義な時を持たせていただいていることは大変ありがたいことと感謝している。音楽の提供者としては、特別展に即した選曲に気を配ってはいるものの、なかなか難しい時もある。

最近で印象深かったのは、日独修好150年の歴史「国際都市・長崎からみたドイツもうひとつの交流史」への参加であった。日本で初めて演奏されたベートーヴェンの第九交響曲まで遡って、久留米収容所で演奏された曲の一端では、とても選曲に苦労した。

また、私が心奪われたのは「ルドゥーテのバラ」展であった。

OMURA室内合奏団のメンバーの、展示場の中での演奏と、バラの馥郁とした香りが溶け合っていたのではなかろうか。思わずバラのグッズを沢山買ってしまった。そのことを知った合奏団のメンバーから、誕生日の祝いにと、額縁入りの「ルドゥーテのバラ」は、最高のプレゼントだった。

エントランスロビーでのコンサートや、小ホールでの演奏も悪くないが、展示会を邪魔しないのであれば、会場内での演奏はより効果的かと思われる。

視覚で感動する展示物と聴覚で感動する音楽が融合できれば、至福の時が生まれるのではなかろうか。

観光都市長崎が、単にグラバー園や軍艦島、また教会群を観るだけでなく、まず、長崎歴史文化博物館へ立ち寄り、少しでも長崎の歴史に触れていただければ、より深い観光となるに違いない。そこに音楽が心の糧のスパイスとなることを願うものである。



音楽文化の担い手を育て継承していくために

長崎県新演奏家協会
事務局長 森山 達郎

長崎県新演奏家協会は、長崎県文化団体協議会が毎年行っている「長崎県新人演奏会」の出演者・および入賞者を中心として構成された団体である。

毎年、長崎で演奏会を開催するのみでなく、東京やイタリアから講師を招聘してセミナー研修会を開催し、会員に限らず地元で活躍する演奏家、音楽家を目指す学生達を含め、相互に広く技術の研鑽などを行い長崎の文化発展に寄与している。これまでの実績が評価され、平成24年秋には長崎県民表彰（優良団体・教育文化功労）を受賞した。

平成27年度は長崎市被爆70周年記念事業「平和祈念音楽祭in長崎～原爆犠牲者の鎮魂と恒久平和への願い～」と題し、浦上天主堂にてW.A.モーツァルト作曲「レクイエム」など平和をテーマとした演奏会を開催。多くの長崎市民（10代の学生から80代の被爆者をも含む）による合唱団とともに、長崎から全世界へ平和のメッセージを発信した。また、長崎の姉妹都市であるアメリカ・セントポール市内のランドマークセンターメインホールとセントジョーンズエクスコバル教会の2ヶ所で、平和交流演奏会を開催し、恒久平和を音楽で祈願した。被爆70周年という記念すべき年に、これまで以上に幅広く積極的な活動ができたことは幸いである。

我々は平成20年より長崎歴史文化博物館コンサートに毎年出演の機会をいただいている。今年度は自主公演も含め、年4回公演させていただいたが、お越しいただいたお客様からは、「博物館の企画展を観終わった後にたまたま演奏会がっており、生で日本や世界の音楽の良さを味わうことが出来て貴重なひと時だった。」というお声をいただいた。また、出演者側としても普段なかなか思うように演奏出来る機会が無いのが現状であるが、長崎歴史文化博物館コンサートでこれまでの研鑽の場として演奏出来る機会があることは大変喜ばしい限りである。

コンサートには毎回お越しいただいているお客様も大勢お見えになっており、さまざまな音楽に触れたいと考えておられる。今後の課題としては、出演者其々が個々に音楽のレパートリーを増やし、コンサートのテーマに沿った音楽をより多くの皆様にお届けするということである。今年度は「みのりバレエスタジオ」の皆様にも賛助出演の協力をいただき、演奏だけでなく見て楽しむという舞台を演出している。このように他団体と協力し、多くの市民に楽しんでいただける機会を今後も展開していきたい。

近年、我々長崎県新演奏家協会では、声楽・ピアノだけでなく管楽器や弦楽器の会員も増加している為、様々な形態での演奏も可能な限り開催したい。また、若手ソリストの育成にも力を入れ、若手ソリストも長崎歴史文化博物館で演奏出来る機会を増やしていくなどして、音楽文化の担い手を育てつつ継承していくことが我々の義務と捉えている。

最後に、長崎歴史文化博物館コンサートの開催に向けて毎回、ご準備いただいているスタッフの皆様にも深く感謝の意を捧げたい。

幼少の頃から親しむ音楽の機会と すべての人に音楽の楽しさを

親子で聴く音楽会レガリーノ
代表 岡 珠子

親子で聴く音楽会「レガリーノ」は2006年3月に発足し、おかげさまでこの春で満10年を向かえます。レガリーノはイタリア語で「小さな贈り物 (regalino)」という意味で、子育て支援と福祉の2本を柱としたボランティア団体です。

レガリーノには二つの願いが込められています。子供達が赤ちゃんのころからコンサートに出向く機会を作ること、間近で演奏家の方々の音色や息遣い、仕草などから放たれるエネルギーの素晴らしさを体感し、楽しみながら将来の夢に繋がってほしいという願いが一つ。プログラムは子供向けの曲だけでなく、一般向けの選曲で構成するように心がけており、子供たちが途中で退屈しないよう工夫することも、演奏家の腕の見せ所だと思っています。クラシックでもジャズでも民族音楽でも、興味があれば子供達は目を輝かせて聴いてくれます。また、毎日仕事や育児を頑張っているお父さんやお母さん方も、子供と一緒に気軽にコンサートを楽しんで、くつろいでいただけたらと思います。



もう一つは、幼少の頃からハンディキャップの有無に関係なく、同じ時間と空間を共有し楽しんでほしいという願いです。私自身障がい児の親でもあるので、障がい者により理解ある社会になるには、幼少の頃からの自然な触れ合いが何より大切だと痛感しています。

以前ある講演会でユニバーサルデザイン商品の経営者の方から、社会全体の企画の基準を障がい者使用にすると、障がい者だけではなく、妊婦さんや子供、お年寄、病気の方などすべての人々をカバーできるとお聞きしました。その観点から、長崎歴史文化博物館は建物全体がバリアフリーで、屋内駐車場からそのままベビーカーや車いすで入って聴く事ができます。また、当館は常に文化的なイベントを展開し情報を発信しているので、市民の皆さまに信頼が厚く、コンサートだけではなく、同時に博物館の展示や企画展を楽しむことができるなど、親子を対象としたレガリーノの趣旨に最適な場所だと思います。

コンサートを開催するにあたり、毎回担当者の方々には多大なご協力をいただき誠にありがとうございます。今ではリピーターも増えて多数のお客様が来てくださるようになり感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも、長崎歴史文化博物館の皆様をはじめ、レガリーノのコンサートに関わってくださったすべての方々の思いが繋がっていき、私たちの未来が更に人にやさしく住みやすい社会になってほしいと願っています。

2. いけばな展示 — 小原流長崎支部との連携 —

長崎歴史文化博物館
教育普及グループリーダー 竹内 有理

1. 実施概要

花鳥画や花に関連した企画展を開催した際に、関連イベントとして、小原流長崎支部の協力によりいけばなの展示を行った。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
「伊藤若冲と京の美術」関連企画 小原流琳派調いけばな	2014年 4月26日(土)～5月6日(火祝)	場 所：1階エントランス	11,975名
「LES ROSES 宮廷画家ルドゥーテの バラ図譜」関連企画 バラの生け花展示	2015年 4月25日(土)～5月10日(日)	場 所：1階エントランス	10,676名
「LES ROSES 宮廷画家ルドゥーテの バラ図譜」関連企画 【体験教室】 バラで生け花を作ってみよう	2015年 5月5日(火祝) 10:30～12:00/ 13:30～15:00	場 所：1階エントランス 参加費：1,000円 (企画展観覧料込み) 対 象：小学生 定 員：各回20名	12名
「我が名は鶴亭」関連企画 文人調生け花展示	2016年 2月6日(土)～2月14日(日)	場 所：1階エントランス	4,527名

「伊藤若冲と京の美術」関連企画

(1) 琳派調いけばな展示

2014年3月21日から5月11日に開催した特別展「伊藤若冲と京の美術」の関連企画として小原流長崎支部の協力により「琳派調いけばな」の展示を1Fのエントランスホールで行った。「琳派調いけばな」とは、華やかで装飾的な琳派の絵画的世界を生け花で表現した小原流の生け花の一つで、今回の展示会のテーマにもふさわしいと考え、協力をお願いした。本展示会の会期がゴールデンウィークにも重なっていたため、ゴールデンウィークの誘客をはかるイベントの一つとしても位置づけた。いけばな展示を通して、多くの生け花関係者に来場していただくことができた。



「LES ROSES 宮廷画家ルドゥーテのバラ図譜」関連企画

(2) バラの生け花展示

2015年4月25日から6月21日に開催した企画展「LES ROSES－宮廷画家ルドゥーテの『バラ図譜』」の関連企画として小原流長崎支部の協力によりバラの生け花展示を1Fエントランスホールで行った。展覧会ではフランスで活躍した画家ルドゥーテが描いたバラの銅版画の作品が展示されたことにちなみ、バラを使った生け花とのコラボレーションを楽しんでもらおうと企画した。展覧会の開催がバラが各地で美しく咲きほこる4月下旬から6月にかけてであったため、バラの生花を展示するには季節もちょうどよかったといえる。1Fのエントランスホールという最も人目を引く場所に展示したため、多くの来場者の目を楽しませてくれるイベントとなった。

「LES ROSES 宮廷画家ルドゥーテのバラ図譜」関連企画

(3) バラで生け花を作ってみよう

上記と同じく「LES ROSES 宮廷画家ルドゥーテのバラ図譜」の関連企画及びゴールデンウィークの子ども向けイベントとしてバラを使った生け花をつくるワークショップを企画・実施した。指導は小原流長崎支部のみなさんにお願いした。午前と午後と2回に分けて参加者を募集したが、定員20名には及ばず、両回合わせて参加者が12名という数にとどまってしまった。参加者が集まらなかった原因は、子どもに対しての事前の告知が不十分だったことと、1,000円という参加費もハードルになったと思われる。小原流長崎支部には事前に準備していただいていた花材や道具の多くを使用しない結果となってしまい申し訳なかったが、子どもたちに日本の伝統文化の一端を体験してもらう機会が持てたのは意義のあることだったと思う。



「我が名は鶴亭」関連企画

(4) 文人調生け花展示

2016年2月6日から3月27日に開催した特別展「我が名は鶴亭」の関連企画として小原流長崎支部の協力により1Fエントランスホールにおいて「文人調生け花」の展示を行った。本展示会では中国絵画の影響を受けた長崎出身の黄檗僧で画家の鶴亭にスポットを当て、花鳥画や水墨画の作品を展示した。それらの作品にちなみ、小原流の生け花の様式の一つである中国趣味の花器や花材を用いた「文人調生け花」の展示をしていただいた。花鳥画の作品に描かれている花木が生け花に使われるなど展示会の内容とも呼応したものとなった。生け花展示の期間は長崎ランタンフェスティバルの期間とも重なり、1Fエントランスホールに飾られたランタンとともに中国色を一層引き立てる雰囲気となった。



2. 成果と課題

長崎の生け花関係団体としては最も規模の大きい流派の一つである小原流長崎支部と連携して、これまで4回のイベントを実施してきた。いずれも当館で開催した展示会に関係したもので、花木を題材とした作品が展示されたものだった。絵画や版画に描かれた花の世界を生花で表現した生け花の展示は、生け花関係者のみならず、花を愛好する多くの人々の来場を促すことになった。また小原流長崎支部の会員をはじめ関係の方々に展示会のチケットを購入していただくなど、観客動員の面でも多大な協力をいただいた。なお、展示にあたって必要な花材費の一部を博物館から支給させていただいたが、展示期間中の毎日の花の手入れにかかわるスタッフの活動については、すべてボランティアで協力していただいた。

これらのイベントを開催したことがきっかけとなり、博物館の奉行所復元ゾーンの書院の部屋において、小原流長崎支部による文人調生け花の花展も開催していただいた。これは小原流長崎支部の主催によるもので、当館は貸室料と来場者の入館料をいただく形で実施した。

これまでに開催したイベントのなかで唯一反省点として挙げられるのは、子ども向けのワークショップ「バラで生け花を作ってみよう」の参加者が当初の予定を大幅に下回る結果となってしまったことである。事前の告知方法の問題、参加費の問題など課題を残すことになった。

生け花は日本の伝統文化のすばらしさを広く一般の人々に伝えていく意味においても当博物館の使命とも合致し、開催するにふさわしい企画なので、今後も当団体との関係を大切に、イベントや教育プログラムなど連携した企画を実施していきたい。

四季のある美しい日本の風土と 自然を愛する心が育んだ“いけばな”

一般財団法人 小原流 長崎支部
支部長 高崎 柚蓉

小原流いけばなは、明治中期、小原雲心により洋花を用いて「盛花」と言う新しいいけばな形式を創始して、近代いけばなの道を切り開いたことに始まり、その時代の生活様式の変化に伴って、現代空間にふさわしいいけばなを生み出してきました。



表現区分としまして、現代の生活空間にマッチした「花意匠」、現在の家元が発案された形で、交差美を表現する「花奏」、植物の立体的な美しさを表現する「花舞」、色彩豊かな「色彩盛花」、自然の風致景観を表現する「写景盛花」、瓶にいける「瓶花」、琳派絵画を背景とした「琳派調いけばな」、中国文人趣味の「文人調いけばな」、創作いけばなの「造形いけばな」等、多岐に渡っています。

そもそも、仏前の花から誕生した“いけばな”は、四季のある美しい日本の風土と、自然を愛する日本人の心が育んだものです。そして、心豊かな日本人の生活の一部でもありました。現代の社会でも、“いけばな”は特別な人だけのものでもありませんので、もっと、身近に感じて頂き、一輪の花でも家の中に飾る習慣を身に付けて欲しいと思います。

そんな伝統文化“いけばな”を、皆様に少しでも身近に感じていただくために、小原流長崎支部は、長崎歴史文化博物館に於いても、二度ほど 花展を開催させて頂きました。一度目は小原流いけばなのいろんな分野をご覧頂けたのでは思うような花展で、二度目は和室を使って、中国趣味の文人調いけばなを展示し、沢山の入館者にご覧頂きました。

また、長崎歴史文化博物館の企画展でも、依頼を受けて、いけばなをいけさせて頂きました。

「伊藤若冲と京の美術展」では金屏風の前に琳派調いけばな、宮廷画家『ルドゥーテのバラ図譜』展では、ばらを使ったいけばなを、今回の「鶴亭展」では、文人調いけばなをエントランスに展示しました。このように立派な企画に“いけばな”で協力させて頂く機会を得る事に感謝申し上げます。

これからも、長崎歴史文化博物館は、市民の皆様が、気軽に訪れることができる、地域に開かれた博物館であって欲しいと願っております。

3. 茶道体験

—— 表千家同門会長崎県支部との連携 ——

長崎歴史文化博物館
教育普及グループリーダー 竹内 有理

1. 実施概要

日本の伝統文化の継承と普及を目的に、表千家同門会長崎県支部と連携して小学生を対象とした茶道体験教室を実施した。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
親子で楽しむ茶道体験	2014年5月4日(日) 10:00~12:00 14:00~16:00	場 所:2階イベントの間(立山亭) 定 員:各回20名 参加費:500円	9名
和文化体験 —茶道を体験してみよう—	2014年5月4日(日) 10:00~12:00 14:00~16:00	場 所:2階イベントの間(立山亭) 定 員:各回20名 対 象:小学生以上 参加費:500円	45名
茶道を体験してみよう	2015年5月6日(水祝) 10:00~12:00	場 所:2階イベントの間(立山亭) 定 員:20名 対 象:小学生 参加費:500円	8名
こども茶道クラブ	2015年 第1回 6月13日(土) 第2回 6月27日(土) 第3回 7月18日(土) 第4回 8月22日(土) 第5回 9月12日(土) 第6回 10月10日(土) 第7回 10月24日(土) 14:00~16:00	場 所:2階イベントの間(立山亭) 定 員:20名 対 象:小学生 参加費:3,500円(全7回)	21名

2. 実施に至る経緯

長崎歴史文化博物館には、地域の茶道関係団体に広く施設を利用してもらうことを目的に各流派の関係者の要望・意見を参考にして博物館2階に茶会が行える茶室を設けている。そのこともあって、開館以来、流派を問わず様々な茶道関係団体に利用規程に則って施設を有料で貸出ししている。大規模なものとしては表千家同門会による市民茶会、裏千家淡交会によるチャリティー茶会など、博物館の施設全体を使った茶会が毎年の恒例行事として定着している。

日頃からこのような関係にあることがきっかけで、表千家同門会長崎県支部に博物館主催の事業への協力を要請したところ、快く引き受けてくださり、2014年度に初めてこどもを対象とした茶道体験教室を開催することになった。当館館長が同門会長崎県支部の幹事を務めていることもあり、同門会長崎県支部としても博物館で一般の方々を対象にした普及活動の実施を模索していたらしく、両者の考えが一致した結果、協働でイベントを実施することになった。

3. 単発イベントから継続イベントへ

2014年度より日本の伝統文化に触れるこども向けの博物館主催事業として茶道体験教室をゴールデンウィークと夏休みの2回実施した。ゴールデンウィークは、広報宣伝の不足もあり、参加者が9名にとどまった。夏休みは市内の全小学校の生徒に夏休みイベントチラシを配布した効果もあって、定員を若干上回る45名の参加があった。1回目のときは参加者が少なかったのに、これだけの参加者があったのは予想外だったが、茶道に対するこども（もしくは親）の興味関心は確実にあり、このような講座に対する需要があることが確認できた。

2014年度は1回で終わる単発のイベントとして行ったため、茶の湯の世界に少し触れてもらうきっかけづくりという位置づけになった。これも意義のあることであるが、せっかくやるのであれば、何回か継続的に稽古を重ねることで知識や技術を習得できるような連続講座を実施して茶道に関心を持つ子どもを育てていければとの提案が同門会から寄せられた。当館としても日本の伝統文化を次世代に伝えていくことは館の使命でもあるので、同門会が主催、博物館が共催という形で「こども茶道クラブ」という連続講座を2015年度より始めることになった。

4. こども茶道クラブ

2015年度よりはじめた「こども茶道クラブ」は全7回の講座で構成され、以下の内容で行った。

- 第1回 お茶とお菓子のいただき方
- 第2回 茶室でのごあいさつと歩き方
- 第3回 お茶をたてる
- 第4回 お茶をたてて、お運びする
- 第5回 お点前をする
- 第6回 お点前をする
- 第7回 親子でお茶会

参加者は小学1年生が5人、2年生が3人、3年生が4人、4年生が1人、5年生が4人、6年生が4人の計21人で、姉妹・兄弟での参加者もいた。

指導にあたった同門会のスタッフは10名ほどで、マンツーマンに近い、きめ細かな指導を行っていた。7回目の最終回は、それまでの稽古の成果を親御さんに披露する「親子でお茶会」を行った。短期間でのこどもの成長ぶりに多くの保護者が驚いていた様子だった。

「こども茶道クラブ」は10月下旬に終了したが、その後、11月に博物館で開催された表千家同門会長崎県支部主催の「市民茶会」の「子ども席」に4人のこどもがお点前の披露とお運びで参加した。こども茶道クラブでの練習の成果を多くの来場者が集まる公式な茶会の場でお披露目できるというのは、子どもにとっても親にとっても忘れがたい貴重な思い出になったであろう。





5. 成果と課題

表千家同門会長崎県支部と博物館の共催事業として、複数回の連続した教育プログラムを実施するのは、当館でも初めての経験であった。同門会にとっては、茶の湯文化を若い世代に継承していく場が持てたこと、博物館にとっても地域の団体に施設を有効に活用してもらい、なおかつ日本の伝統文化の普及に寄与できる点で、双方にとって意義のある活動だといえる。共同事業として継続的に実施するには、お互いの役割分担が必要となる。茶道の指導や道具の準備については同門会がすべて行い、博物館は場所の提供と参加者の募集及び広報活動などの後方支援を行う形で実施した。抹茶、菓子などにかかる費用の一部は参加者から参加費として徴収しているが、その他スタッフの指導料や交通費などの費用はカバーできていない状況である。費用的にも労力的にもスタッフに負担がかかり過ぎないようにすることが今後継続していくための条件となるであろう。

また「こども茶道クラブ」を終了した子どもたちがその後も続けられるような受け皿が必要ではないかという問題も提起された。茶道に興味を持った子どもたちが継続して稽古を続けられる受け皿をどこにどのようにして設けるかなど検討が必要である。

茶の湯文化の継承のために

表千家同門会長 崎県支部
事務長 原口 美千代

表千家同門会長崎県支部は、国内に53カ所ある支部の一つで、表千家の茶道をたしなんでいる団体です。表千家の家元は千利休を初代として、450年もの長い間続いてきた茶道本流の家元です。

私たちは、伝統文化である茶道を学び楽しみ又広く皆さまに茶の湯文化の良さを知って頂きたいという思いで色々な活動を行っています。そのような中で、歴史文化博物館の「まなびのプログラム」の行事に参加する事になりました。

当館の行事で子供達を対象とした素晴らしい企画のプログラムです。

今回私たちは、小学生を対象とした「茶の湯文化にふれる-こども茶道クラブ」を行う事になりました。期間は6月から10月までに7回行い、1回を2時間といたしました。参加者は21名(1年生5名、2年生3名、3年生4名、4年生1名、5年生4名、6年生4名)となりました。

指導するに当たり低学年、中学年、高学年の三つのグループに分けての指導となりました。低学年生が多く、初めて茶道に触れる子供達もいたため、指導者は、毎回12名ほどとなりました。

私たちの目標としたのは、第一に和菓子とお抹茶をおいしいと思ってもらう事、第二にお花や和菓子などで季節を感じてもらう事、第三に和室での歩き方、座り方の作法が有るという事を知ってもらう事、第四に表千家長崎県支部で行っている11月の市民茶会の子供席への参加者を増やす事。そして、茶道に興味を持ってもらう事でした。

その為にも毎回、季節の和菓子を二品用意しました。(こどもクラブの為の特注の品です)

前半(最初の50分間)に主菓子を頂きお抹茶を一服。そして、後半にお干菓子を頂き又お抹茶を一服頂くようにしました。

お陰さまで第一の目標は難なくクリア、1年生から6年生まで毎回、“おいしい”と言っていた子供たちの笑顔が忘れられません。

会費は7回コースで1人3,500円の会費でした。只、お菓子とお抹茶でおかたが消えてしまいました…。

お茶室は立山亭を用意して頂きました。立派な床の間に博物館の素晴らしい掛物を掛けて頂き、環境は申し分の無いものでした。第二の目標もほぼクリアできたと思っています。

第三の目標は、皆さんとてもお行儀の良い子供たちばかりで、休憩時間でもお正座をしている子供もいて、私たちが驚くほどでした。

第四の目標は、市民茶会の子供席への参加者が3名いた事、茶の湯文化への継承も希望が持てそうです。

7回目の最後の日、両親や祖父母の皆さんに参加して頂きました。父兄がお客様となり、我が子の点てるお抹茶を頂く、その時の父兄の感激した様子や子供たちの緊張した顔と喜びに輝いている瞳をみると「子ども茶道クラブ」を行って良かったと私たち指導者全員の思いでした。

只、毎回の茶道具の運搬、準備、片付けと思った以上の負担が要りました。茶道具の半分でも荷物を館へ預ける事ができればとの思いも致しました。

子ども茶道クラブを行うに当たって、会員の募集や受付又会場や駐車場の提供など有難く思う事が沢山ありました。

私たちにも初めての経験でしたが、無事に終了できましたのも博物館員の皆様のご協力の賜とっております。

長崎県支部一同、心より感謝申し上げます。

4. 煎茶の楽しみ — 文人流知足会との連携 —

長崎歴史文化博物館
教育普及グループリーダー 竹内 有理

1. 実施概要

中国に関わりのある企画展を開催した際に、その関連イベントとして煎茶を体験するイベントを実施した。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
「中国福建博物院展」関連企画 煎茶の楽しみ	2012年10月28日(日) 13:30~/14:00~/ 14:30~/15:00~/ 15:30~	場 所:2階イベントの間(立山亭) 定 員:各席30名 参加費:500円	110名
「魅惑の清朝陶磁」関連企画 煎茶の楽しみ	2014年1月25日(土) 13:00~/13:30~/ 14:00~/14:30~/ 15:00~	場 所:1階エントランス 定 員:各席20名 参加費:500円	95名
「れきぶんのお雛祭り」関連企画 煎茶のふるまい	2014年3月1日(土) 13:00~/13:30~/ 14:00~/14:30~	場 所:2階ロビー 定 員:各席10名 参加費:常設展又は 企画展チケットが必要	50名
「我が名は鶴亭」関連企画 煎茶のたのしみ	2016年2月20日(土) 13:00~/13:30~/ 14:00~/14:30~/ 15:00~	場 所:1階エントランス 定 員:各席20名 参加費:500円	75名

「中国福建博物院展」関連企画

(1) 煎茶の楽しみ

2012年10月6日~11月30日に開催した「中国福建博物院展 ~長崎文化の源流をたずねて~」の関連イベントとして「煎茶の楽しみ」を実施した。本企画展は長崎県と福建省の友好県省締結30周年を記念して開催したもので、当館と友好交流協定を結んでいる福建博物院の所蔵資料100余点を紹介する初めての連携企画展でもあった。福建省と長崎県の交流の歴史を物語る文化の一つとして、黄檗僧・隠元隆埼が江戸時代、福建省から長崎に煎茶を伝えたこととされることにちなみ、煎茶を通じて中国から伝わった文化に触れてもらうことを目的に当イベントを実施した。協力いただいた文人流知足会を通じて茶券の販売や宣伝をしていただいたおかげで、当初目標の110名の参加者数を達成することができた。一般の来館者の目に触れにくい2Fの和室(立山亭)で実施したため、事前に知っている人のみの参加に限られ、たまたま来館されたお客様が気軽に参加できる雰囲気では必ずしもなかったことが反省点として挙げられる。



「魅惑の清朝陶磁」関連企画

(2) 煎茶の楽しみ

2013年12月28日から2014年3月3日に開催した企画展「魅惑の清朝陶磁」では、国内に伝世する清朝の陶磁器とそれらに影響を受けた日本の陶工による作品を紹介した。喫茶文化の爛熟期といわれる明末・清の時代、長崎にも黄檗僧・隠元隆崎によって煎茶が伝えられ、その後、文人趣味として日本中に広まっていった。同展では清朝の急須や茶心壺、水注、茶碗、涼炉など煎茶道具も数多く展示された。関連イベントとして実施した「煎茶の楽しみ」では、本企画展で展示されている作品と同種の粉彩が施された水柱をはじめ、唐物の道具を使ってお点前を披露してもらった。前は和室で行ったが、今回は1階のエントランスで行い、来館者の目に触れやすいオープンスペースで行ったため、より多くの人に煎茶の様子を見てもらうことができた。

「我が名は鶴亭」関連企画

(3) 煎茶の楽しみ

2016年2月6日から3月27日に開催した特別展「我が名は鶴亭」は、長崎出身の黄檗僧で画家の鶴亭（1722～1785）にスポットを当てた初の回顧展であった。鶴亭は若い頃、長崎の聖福寺で黄檗僧として修行を重ね、画家として京阪で活躍した後、晩年には黄檗僧に復帰し京都萬福寺塔頭紫雲院の住持となった人物である。煎茶は黄檗宗とともに長崎を通じて日本に伝えられた文化であることから、本特別展の関連企画として「煎茶の楽しみ」を企画、実施した。煎茶のルーツが黄檗宗と関係が深いことを本イベントを通して知ってもらう機会となった。



2. 成果と課題

これまで4回の煎茶に関するイベントを実施した。そのうち3回は企画展の内容と連動させたものだった。江戸時代から続く長崎と中国の交流の歴史のなかで、黄檗僧や来舶清人によって様々な文化が長崎に伝えられた。文人趣味として広がった喫茶の文化もその一つといえる。長崎で生まれた文人流知足会は、他の流派と比べて唐物と呼ばれる中国風の茶道具を用いることが多く、中国の文化が直接入ってきた長崎らしい特徴を残している。煎茶道の継承に取り組んでいる文人流知足会と連携してイベントを実施できたことは大変有意義なことだった。同じお茶でも抹茶に比べて一般の人々が煎茶道に触れる機会は少ない。中国風の煎茶器を使って煎茶をいただく体験はめったにできないことである。実際に目で見て、茶器に触れ、舌で味わうことにより、展覧会場で作品を観るだけでは味わえないよりリアルな体験を提供することができたのではないだろうか。これらのイベントを通して展覧会への興味関心を持ってもらい、動員につなげることができたのはよかった。一方で参加者の多くは知足会を通じて来ていただいた方がほとんどだったので、煎茶に関心を持つ層を広げるという意味では必ずしも十分ではなかったかもしれない。多くの来場者を対象とする博物館で開催するからには、一般の人々にもっと煎茶に興味関心を持ってもらうような工夫や働きかけが必要だと感じた。

煎茶は中国と長崎との交流の歴史を語るうえで欠かせないテーマの一つでもあるので、今後も継続的に続けていけたらと思う。



大正時代、長崎で生まれた煎茶と 花の流派、“文人流”

文人流知足会
家元 山口 祥泉

私は、文人流知足会の山口祥泉と申します。

文人流は、大正時代、長崎で生まれた煎茶と花の流派です。

初代古賀加仙家元は、中国の文人趣味に感銘を受け、南画のような花を生ける文人流南派瓶花と、玉露方式による文人流南派煎茶を創流しました。

花は、四季四君子（春は春蘭、夏は竹、秋は菊、冬は梅）を中心にその取り合わせにより、風雅な題をつけ、自然を尊重することを根本精神としています。

例えば、木蓮に牡丹で「玉堂富貴」、竹に百合で「百事平安」、松にバラで「不老長春」、柿に寒菊で「枯木寒鳥」などが挙げられます。

また、お煎茶は、湯加減をすることで、お茶の香り、旨味、渋みを味わい、道具を広げたり片付ける時の配置で、いろいろな景色を描いたりという、趣向を凝らしたものです。

お点前中も、お道具や季節の設えなどに話が弾み、和やかな雰囲気が味わえます。

初代家元が愛された言葉「吾唯足知」^{われただたるをしる}より、知足会をつくり、現在私が五代目の家元を務めております。

この会では、年に一度発表会を続けていて、今年で六十年目になります。この会の他に、発表の機会を頂いたのが、歴史文化博物館の企画展関連イベントとしての煎茶席でした。

最初は四年前、中国福建博物院展・関連イベントとしての煎茶席です。場所は立山亭の和室で百名の方に参加して頂きました。

二回目は二年前、清朝陶磁展の時でした。場所はエントランスで、オープンな雰囲気の中で行いました。いずれも、今までお煎茶を知らなかった方々にも、参加していただき、文人流を知って頂くのに、とてもいい機会になったと思っております。

また、昔文人流を習っていましたが、という方々も来て下さり、懐かしいお話も聞かせて頂き、嬉しく思いました。

煎茶や花は、伝統文化であり、これからも継承していかなければ、と思っております。

これからも、博物館の企画展を見せて頂き、多くの文化を吸収し、今後の活動に生かしていきたいと思っております。

また、いろいろな分野の方々との交流も、大変楽しみにしております。

最後になりましたが、微力ながら博物館のお手伝いができますよう、今後とも精進していきたいと思っております。

2. 市民団体との連携

1. 昔あそび

—— 長崎節木塾との連携 ——

長崎歴史文化博物館
教育普及グループ 一瀬 勇士

1. はじめに

長崎歴史文化博物館では、これまでにさまざまな子どもを対象としたワークショップやイベントを実施してきた。その中でも長崎市内で活動する市民団体の一つ「長崎節木塾」との連携では、2006年度から主に木竹材を利用したワークショップを継続して実施しており、現在では主に長崎の伝統行事の一つであるハタづくりを中心に子どもたちへの指導や教育普及活動を行っている。

連携の目的としては、子どもたちに長崎の伝統行事であるハタづくりやお正月飾りなどに親しむ機会を提供するとともに、自然素材を活かした昔ながらの遊びを通して、博物館における世代間交流の促進があげられる。

現在でも長崎市内では、金比羅山や風頭山、唐八景などでハタ揚げ大会が行われており、江戸時代から続く伝統行事を子どもたちへ継承する貴重な機会となっている。

2. 実施内容

(1) ハタづくりとハタ揚げ

2006年度と2007年度に実施した「ハタづくりとハタ揚げ教室」では、午前中（前半）に骨組みづくりから紙張りまでの工作活動を行い、午後からは希望者のみ実際に制作したハタを立山グラウンドで揚げて楽しんでもらった。

長崎節木塾には、工作活動からハタ揚げまでの指導・協力を依頼し、親子参加で伝統行事に触れられるイベントとなった。ただ、課題も多くあり、工作活動では子ども一人では組立てが難しく、大人の補助が必要な場面もあった。また、博物館から立山グラウンドまではやや距離が離れており、移動手段の問題や天候に左右されやすいなどの課題があった。

次年度以降に実施したハタづくり教室では、費用対効果や実施面での見直しを図り、工作活動にのみに特化して実施するようになった。なお、ここ数年ではハタ揚げが春の伝統行事であるため、ゴールデンウィーク期間中における子ども向け（親子対象）の集客イベントとして継続的に実施を行っている。



(2) お正月あそび（屋外編）

2008年度から2009年度に実施した「お正月あそび（屋外編）」では、諏訪神社への参拝客や子どもを対象としたイベントを屋外イベント広場において実施した。主な内容としては、羽子板の色絵付けと体験、独楽回し、竹馬体験、一銭バタづくりなどである。羽子板のみ有料であったが、それ以外のものについては、無料で参加者に提供した。これらの体験指導や道具の設営・準備に至るまでを長崎節木塾の協力を得た。

お正月あそびでは、予想以上に集客があり、家族三代で楽しむ光景もみられた。また、天候にも恵まれたことも好条件となった。逆に次年度に実施したお正月イベントでは、悪天候であったため、開催場所を回廊に移すなど、現場での対応に追われた結果、開催場所の変更などを来場者に上手く伝えることができなかったこともあり、集客数は前年度に比べ大きく減少した。



長崎節木塾 連携イベント一覧 ※夏祭りでの連携は除く

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
ハタづくり・ハタ揚げ教室	2006年4月23日（日） 10:00-15:00	場 所：1階講座室・立山グラウンド 参加費：1,000円	20名
お正月かざりと一銭バタ	2006年12月24日（日） 13:30-16:00	場 所：1階講座室 参加費：500円	14名
木でつくろう	2007年1月6日（土） 13:30-16:30	場 所：1階講座室 参加費：500円	12名
ハタづくり・ハタ揚げ教室	2007年4月30日（月・祝） 10:00-14:00	場 所：1階講座室・立山グラウンド 参加費：1,000円	18名
木で作ろう。昆虫	2007年8月12日（日） ①13:00-14:30 ②14:30-16:00	場 所：1階講座室 参加費：500円	30名
お正月かざりをつくろう	2007年12月23日（日）	場 所：1階講座室 参加費：一部有料	20名
お正月あそび（屋外編）	2008年1月5日（土） 13:00-15:00	場 所：イベント広場 参加費：一部有料	376名
ハタづくり教室	2008年4月26日（土） 10:00-12:00	場 所：1階講座室・イベント広場 参加費：1,000円	延期
竹でつくろう飾りバタ	2008年8月10日（日） 14:00-15:30	場 所：1階講座室 参加費：500円	20名
竹でつくろうお正月飾り	2008年12月27日（土） 14:00-15:30	場 所：1階講座室 参加費：500円	38名
お正月あそび（屋外編）	2009年1月4日（日） 13:00-16:00	場 所：イベント広場 参加費：一部有料	64名
ミニ門松づくり	2009年12月26日（土） 14:00-15:30	場 所：1階講座室 参加費：500円	10名
昇龍婆羅門展	2010年3月20日 ～5月9日（土・日） 8:30-19:00	場 所：1階エントランス 参加費：無料	50,635名

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
むかしの遊び体験	2010年5月4日(火・祝) 14:00-16:00	場 所: イベント広場 参加費: 一部有料	92名
長崎のハタをつくろう!	2012年5月3日(木・祝) 13:30-15:00	場 所: 1階エントランス 参加費: 700円	27名
長崎のハタづくり	2013年5月6日(月・祝) 13:30-15:00	場 所: 1階エントランス 参加費: 1,800円	22名
長崎のハタづくり	2014年5月3日(土) 13:30-15:00	場 所: 1階エントランス 参加費: 1,000円	15名
長崎のハタづくり	2015年5月3日(日) 13:00-15:30	場 所: 1階エントランス 参加費: 1,000円	8名

3. 成果と課題

長崎では凧のことを「ハタ」と呼び、江戸時代の記録である「長崎古今集覧名勝図絵」には、金比羅山でハタ揚げを楽しむ人々の様子が描かれている。また、このハタ揚げは、「長崎くんち」、「精霊流し」と並んで長崎人には欠かせない行事の一つであり、長崎三大行事の一つに数えられている。

この伝統ある年中行事を次世代に継承する機会として、当館で実施してきたハタづくりは、地元で活動する市民団体と連携しながら、実践してきたイベントであり、子どもから大人まで楽しめるイベントとして参加者



リンデン伯「日本の思い出」より

の満足度は高い。しかし、年々継続する中で、担当者間でのマンネリ化や広報宣伝不足などもあり、思うように集客できなかった機会もあった。更には、2006年度や2007年度のハタづくり教室では、実際に立山グラウンドで制作したハタを揚げていたが、それ以降は行わなくなっているため、工作活動のみで完結している状況である。従って、展示室との連動や博物館の資料を交えた内容の充実と見直しが必要であると感じている。

費用面では、長崎節木塾に対して「実演・体験者作業補助費」の名目と交通費の支払いを行っているものの、必ずしも費用対効果の面で実情に即したものとは言えない面もある。

特にハタづくり教室の料金設定については、毎年試行錯誤の状況である。体験料を値下げしたからといって、すぐに集客に直結するものではなく、参加者のニーズを汲み取りながら、早期の広報展開と地道な継続がやはり必要であると痛感している。

近年では、テレビゲームやインターネットの普及によって子どもたちの遊び場や内容も様変わりしてしまい、古き良き時代の遊びも年々姿を見かけなくなってしまったが、今後も引き続き、長崎節木塾との連携・協働しながら、昔ながらの遊び体験を提供していきたいと思う。

最後になりましたが、長崎節木塾の塾長として長年、活躍されてこられた塚屋眞次氏が昨年お亡くなりになり、職員一同突然の訃報で驚くばかりでした。この場をお借りして改めて哀悼の意を表すとともにこれまでの当館へのご支援・ご協力に深く感謝いたします。

各人が知恵を振り絞り、専門技術を惜しみなく 発揮して地域の発展に貢献する

長崎節木塾
元塾長 森 昇

長崎節木塾としてスタートしたのは、平成一八年四月からですが、その前身は三年前の平成一五年長崎伝習所「新・竹取物語塾」という名で誕生いたしました。伝習所は一応三年で卒業し、以後のメンバーはそのままで改名し、単独の塾として引き続き活動を行っております。

塾生は、現在一六名(男性一三名、女性三名)で、定例会は毎月第一土曜日の午後一時より前月の活動報告、今後の予定と作業日程、その他意見交換など和気あいあいの内に会議は終了します。また、色々な準備のための作業日を毎週木曜日と定め、急を要する場合は他の曜日にも万障繰り合わせ作業を間に合わせます。一年を通じて、各種イベントなど固定化したのもあれば、学校関係、地域や公民館など急遽依頼されることも多々あり、塾としても臨機応変に対応しなければなりません。

次に、概略ではありますが各種イベント等の参加状況について順を追って紹介しますと、春は三月中旬の松山競技場での「グリーンキャンペーン」五日間、四月下旬は山茶花高原での「ハタ揚げ大会」、五月初旬は長崎歴史文化博物館での長崎の風物詩「ハタづくり教室」、同五月の四・五日は浜の町ベルナード観光通りでの「こどもの日キャンペーン」二日間、夏は八月初旬長崎歴史文化博物館での「奉行所夏祭り」で昔あそびの出演、八月下旬は塾で「夏休み工作教室」、秋は十月下旬外海の「棚田火まつり」、十一月中旬は出島ワープでの「とれたて恵みとみどりの感謝祭」二日間、冬は年末公民館などでの「ミニ門松づくり教室」などです。

そのほか、塾内の活動としましては、五月の茶摘み・製茶、年末の餅つき、炭焼きなどを適宜行っております。また、各イベントでの物づくりの内容については、多少違いはあるものの、おもちゃの車づくり、一銭バタづくり、竹箸(菜箸含む)づくり、竹トンボなどの竹細工、竹の彫刻(お守り、絵や文字)、万華鏡づくり等々です。小物販売としては、山野草の竹鉢植え、キーホルダー、お手玉、竹細工、松ぼっくり、ゆずなどです。

塾生の数は少人数ではありますが、各人が意識的に知恵を振り絞り、それぞれの分野で専門技術を惜しみなく発揮してもらい、多方面からの要請に迅速に対応できることは、ひいては地域の発展・町おこしなどに少なからず貢献できるのではと確信いたしております。

長崎歴史文化博物館で開催して良かったこと

「長崎のハタづくり教室」、「奉行所夏まつり」共に親子連れが主体で、若いグループやカップルなど少々見受けますが、特に子ども達の真剣なまなざしで、ハタや物づくりに励む姿を見ると、何とも言えぬ満足感に浸ることができました。

2. 食文化体験

—— 長崎町人町プロジェクトとの連携 ——

長崎歴史文化博物館
教育普及グループリーダー 竹内 有理

1. 実施概要

長崎市内でまちづくり活動に関わっている市民団体「長崎町人町プロジェクト」との共催事業として長崎伝統の歳時料理を試食する食文化体験の講座を開催した。

2013年度

テーマ	開催日時	開催概要	参加者数
節句料理の試食会 ～唐あくちまぎと鯉菓子～	2013年5月5日(日) 14:00～16:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 岩永徳二氏(岩永梅寿軒) 場所:立山亭/銀嶺 定員:30名(中学生以上) 参加費:3,000円	20名
長崎のお盆	2013年8月11日(日) 16:00～17:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:30名(中学生以上) 参加費:1,500円	9名
手作り月見団子	2013年9月16日(月祝) 18:00～20:00	講師:岩永徳二氏(岩永梅寿軒) 場所:立山亭/奉行所書院 定員:30名(中学生以上) 参加費:1,500円	35名
くunch料理	2013年10月5日(土) 15:00～17:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:30名(中学生以上) 参加費:2,000円	35名
正月料理	2013年12月22日(日) 15:00～17:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:銀嶺 定員:30名(中学生以上) 参加費:1500円	38名
節分料理	2014年2月1日(土) 15:00～17:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:30名(中学生以上) 参加費:2,000円	19名
桃の節句	2014年3月2日(日) 14:00～15:30	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:30名(中学生以上) 参加費:1,000円	34名

2014年度

テーマ	開催日時	開催概要	参加者数
端午の節句	2014年4月27日(日) 13:00～15:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:30名(中学生以上) 参加費:2,000円	28名
長崎のお盆	2014年8月10日(日) 13:00～15:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:20名(中学生以上) 参加費:2,000円	12名
くunch料理	2014年10月5日(日) 13:00～15:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:20名(中学生以上) 参加費:2,000円	23名
玄猪の祝い	2014年11月3日(月) 13:00～15:00	講師:岩永徳二氏(岩永梅寿軒) 場所:立山亭 定員:20名(中学生以上) 参加費:2,000円	13名

テーマ	開催日時	開催概要	参加者数
正月料理	2014年12月23日(火) 13:00~15:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:20名(中学生以上) 参加費:2,000円	37名
節分料理	2015年2月1日(日) 13:00~15:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:20名(中学生以上)	33名
桃の節句	2015年3月1日(日) 13:00~15:00	講師:脇山壽子氏(郷土料理研究家) 場所:立山亭 定員:15名(中学生以上)	32名

2. 実施の経緯

当博物館の常設展示室に江戸時代の長崎の町人文化を紹介するコーナーがある。江戸時代から続く旧家の町屋を一部再現し、その中で季節毎の伝統行事に合わせた展示や郷土料理の展示を行っている。「食文化体験」はこの展示と連動した内容となっており、実際に料理を試食してもらい、長崎の歴史文化を食文化の視点から体験し理解してもらうことを目的としている。

市内で長崎の町人文化の掘り起こしとそれらを活用したまちづくりに取り組んでいる団体「長崎町人町プロジェクト」より、博物館で食文化を体験する講座ができないかとの提案があった。当館の展示内容とも関係が深く、長崎の町人文化や伝統行事を継承、発信していくことは博物館の重要な役割でもあることから意見が一致し、協働して本事業を実施することになった。



▲食文化体験と連動した町屋展示

3. 実施内容

長崎在住の郷土料理研究家の脇山壽子氏を講師に迎え、料理や歳時についてのお話を聞きながら歳時料理をいただいた。参加者には料理の試食の前後に、常設展示室の町屋に展示されている伝統行事に合わせた家の設えや料理も見学してもらった。

2013年度と2014年度の2年間にわたって季節の行事毎に以下の内容で食文化体験の講座を開催した。講座によっては雛飾りや伝統楽器の演奏なども加え、雰囲気盛り上げる工夫を行った。

端午の節句	唐灰汁ちまき、鯉菓子
長崎のお盆	冬瓜の吸い物(精進落ち)
中秋の名月	月見団子づくり/尺八と二胡の演奏
長崎くんち	お煮しめ、柘榴なます、更紗汁、あずき御飯
亥猪の祝い	亥の子餅
正月	長崎雑煮
節分	金頭の煮付け、トッポイカの煮付け、紅大根酢物、更紗汁、あずき御飯
桃の節句	春野菜の煮物、貝類のぬた、切り干し大根酢物、更紗汁、あずき御飯、桃カステラ/雛飾り

共催者である長崎町人町プロジェクトとの役割分担については、講師への謝礼と料理の材料費の支払いは町人町プロジェクトが行った。参加費のうち500円は、常設展の観覧料として博物館の収入とし、残りは町人町プロジェクトの収入とした。博物館は場所の提供と広報活動を担当し、当日の運営は町人町プロジェクトのメンバーと当館職員が協働して行った。

4. 成果と課題

参加者は中高年の女性がほとんどで、脇山先生の料理にまつわるお話を聞きながら料理をいただく講座は大変好評で人気が高かった。参加者の募集は博物館で発行しているイベント情報パンフレット「イベント歳時記」やホームページのほか、長崎コンベンション協会が主催する「ながさきさるく」のパンフレットにも掲載し、学さるくの一環としても行った。講座によっては参加者が集まらず、キャンセルになったものもあったが、全体としては一定の参加者を集めることができた。

内容的にも長崎の伝統文化に対する理解を深めることができたこと、博物館の町屋の展示との関連を持たせることができたことなど、博物館にとっても目的に合った意義のある講座だった。

一方で、必要経費が参加費だけではカバーしきれない、開催頻度が高いため運営スタッフの確保が難しいなど課題も残った。これらの課題を克服しながら、新たな体制で2016年度から食文化体験を再開すべく準備を進めているところである。

季節の暮らしの愉しさ、長崎伝統の食の素晴らしさを 知ってもらうために

長崎町人町プロジェクト
岩崎 直哉

長崎町人町プロジェクト

江戸時代初期、17世紀初め頃より町人の暮らしの中で生まれ、長い時間をかけて熟成され現代まで継承されてきた長崎町人文化の素晴らしさを顕在化し、観光やまちづくりに活かす活動を推進している長崎町人町プロジェクトは、衰退が危惧されるこの魅力ある長崎独自の文化を残し発展させることを目的に学さるく・イベント・広報物の制作等を行っている。長崎くんちをはじめ、川まつり・盃盆会・灌仏会・節句・節分等の地域に密着した活動を平成2年より続け、平成23年より長崎町人町プロジェクトとして新しい組織を設立し、活動の中心となる“学さるく”事業として野口文龍、川原慶賀が残した資料を参考に長崎歳時記の再生事業に着手いたしました。その中で食文化体験を長崎歴史文化博物館との共催で年間を通し季節の暮らしの愉しさ、長崎伝統の食の素晴らしさをより広く知ってもらうために試食会と講話というスタイルで実施しています。

共同事業の意義

私達が連携して活動してきた事業として①長崎歴史文化博物館での食体験、②学さるくでの町人文化紹介、③商店街や地域での歳時記イベントと大きく3つの催しを2年間実施しました。その中で多くの参加者があり、今後も開催を望む声を頂いているのは食文化体験が一番多く、事業の趣旨の理解やニーズが確かであることを実感しています。長崎歴史文化博物館という専門的な施設での共同開催や講師、スタッフの努力はもちろんですが参加者をはじめとする長崎市民の伝統文化再生の愉しみと継承する価値への理解が大きいからだと思われます。どうしても長崎と言えばキリスト教関連、居留地、中国との交流等の歴史文化の紹介が主体となりますが、長崎の基本である“町人文化”の奥の深い最も長崎らしい江戸時代の暮らしから熟成された粋で艶のある文化の魅力を伝えるために質の高い専門性のある博物館との共同事業は大きな力となっています。

課題と今後の展開

2年間の事業運営の中で課題が色々と見えてきました。①発信する情報量の少なさと的確な広報ツールの選択。現状は博物館ネットワークに頼っていて市民団体からのアプローチが出来ていない。そのため幅広い層への参加募集がなく、また事業内容がほとんど知られておらず市民に浸透していない。②食文化体験に関しては設備の不十分、スタッフの確保、事業としての未熟さもあり講師への負担を軽減することができない。③面白いテーマは数多くあり、企画概要版までは作成できるのだが実施運営となると共同体制、経費、管理等の問題がありなかなか推進できていない。今後は食体験だけではなく長崎町人文化のあらゆるカテゴリーから参加者が興味を持てるものを複合して立案し、実施体制の構築を進めながら古くて新しい視点と皆が楽しめる事業内容を提案していきたいと思っています。

3. エコ学ぼ! —— 長崎県地球温暖化防止活動推進センター(NCCCA)との連携 ——

長崎歴史文化博物館
教育普及グループ 一瀬 勇士

1. はじめに

長崎歴史文化博物館では、2010年度から長崎県未来環境推進課の委嘱を受けた長崎県地球温暖化防止活動センター（以下、NCCCAと略す）との共同事業として、エコロジーをテーマとした環境学習会「エコまなぼ!」を年3回~4回の頻度で実施している。

具体的には、地球温暖化や環境問題をテーマとした教育普及や啓発活動が中心で、しりとりで省エネを学べるカルタづくりや、廃ろうそくのキャンドルづくり、自家発電可能な自転車体験など遊びの中から環境教育について、学びを深められる点が特徴の一つとなっている。

2. 実施内容

2010年度の実施以降、NCCCAとの連携事業は24回を数えるまでに至っており、当館の地域連携事業には欠かせない恒例イベントとなっている。また、毎年夏の恒例行事となっている奉行所夏祭りでは、エコ寸劇や昔の灯り体験などユニークな演し物を提供している。更には、「長崎打ち水大作戦」と題した打ち水を行うイベントも好評で、この時ばかりは、大勢の子どもたちで賑わっている。

NCCCAとの連携事業では、博物館の企画展や季節の歳時と連動した企画になるよう担当者間での協議のうえ、事業を進めている。過去に実施したものとしては、「江戸エコ学習会」「明治エコ学習会」「クリスマスキャンドルづくり」などがあり、当館の教育教材として活用している古いカメラやガラス版写真、覗き眼鏡絵などを使った博物館資料とNCCCAの教育ツールがコラボレーションした企画もあった。

こうした当館の取り組みは、地域連携によって生み出される相乗効果を最大限に活かした「環境教育」と「博物館教育」の実践型の教育連携であり、子どもから大人まで楽しめる内容となっている。

当館独自のエコイベントとしては、博物館のエコ設備を案内する特別なバックヤードツアーがある。当館では、駐車場の地下室に雨水を貯める貯蔵施設やろ過設備を備えており、館内のトイレ洗浄や屋外の散水などに利用されている。案内役は、当館に常駐している設備担当の職員が務めている。従来の博物館のバックヤードといえば、収蔵庫やトラックヤード、修復施設といった博物館の役割や機能に特化した施設見学が多かったが、NCCCAとの連携によって、新たなバックヤードツアーを構築できたことは大きな収穫であった。

環境学習会「エコまなぼ!」連携実績一覧

イベント名	開催日時	場所	参加者数
エコまなぼ!	2010年5月30日(日) 13:00-16:30	1階エントランス	100名
長崎打ち水大作戦!	2010年8月7日(土) 17:00-21:00	イベント広場	※451名
エコまなぼ!	2010年9月12日(日) 13:00-15:30	1階エントランス	50名
エコまなぼ!	2010年11月13日(土) 13:00-15:30		37名
クリスマスキャンドルをつくろう!	2010年12月23日(木・祝) 13:00-16:00		100名
回して体感エネルギー	2011年4月29日(金・祝)		35名
遊んで学ぼう!環境ゲーム	2011年7月30日(土)		89名

イベント名	開催日時	場所	参加者数
環境ゲームで“省エネ”実践	2011年11月20日(日)	1階エントランス	26名
廃ろうそくでキャンドルづくり	2011年12月23日(金・祝)		53名
江戸エコ学習会	2012年2月4日(土)		55名
明治エコ学習会	2012年4月28日(土)		43名
お江戸でエコまなぼ!	2012年8月4日(土)		30名
ゴミ分別でエコ上手	2012年10月20日(土)		31名
竹取キャンドル物語	2012年12月15日(土)		18名
エコ今昔物語	2013年2月2日(土)		46名
エネルギーのひみつ探検隊	2013年5月6日(月・祝)		27名
れきぶんエコフェス	2013年8月10日(土) 17:00-21:00	イベント広場	※863名
竹取キャンドル物語	2013年12月22日(日) 13:00-16:00	1階エントランス	40名
作ってあそぼう!!!リサイクル	2014年5月3日(土)		15名
れきぶんエコフェス	2014年8月2日(土)		※492名
しあわせエコライフ	2014年12月13日(土)		83名
電気をつくってみよう!	2015年5月2日(土)		80名
エコ寸劇	2015年8月8日(土) 16:30-21:00	イベント広場	※900名
古写真に見る明治の長崎	2015年12月12日(土) 13:00-16:00	1階エントランス	43名

※夏祭り参加者数

3. 成果と課題

NCCCAとの連携が始まった当初は、試行錯誤の段階で企画内容の構成から当日の運営まで、検討しなければならない課題も多かった。しかし、回数を重ねる毎に事前準備や連携の内容も進化し、現在では良好な関係のもと、博物館ならではのエコ学習会に至っている。

2011年度に実施したエコイベントでは、目的や役割分担を明確化し、年度計画の段階から教育普及の担当者が関わり、広報面や当日の運営、スタッフ人員、備品の提供など、ギブ&テイクの関係性で事業を進めた結果、近隣の学校や学童の集客、メディアへの情報提供などの面では一定の効果を得ることができた。

連携を継続していくことによって、両者の特徴を活かした学びのプログラムの充実化は確かに前進したといえる。しかし、その一方で課題も顕在化している。それは携わる職員の移動や転出などによって、引継ぎが上手く伝達できていない面や実施できる教育プログラムに多少の差が生じている点である。また、イベント内容のマンネリ化も否めない。こうした背景には、当初積極的に行われていた担当者間の打ち合わせや連絡などが滞っている点が考えられるのではないだろうか。

持続可能なイベントを継続していくうえで、担当者間のコミュニケーションは欠かせないものである。特にNCCCAとの連携事業において、夏の恒例行事である奉行所夏祭りでの連携・協力は、両者の利害関係や

目的が一致していることもあり、年々強固なものとなっている。

次年度以降のNCCCAとの連携の課題としては、単発イベントで終わらせるのではなく、複数のイベントと連動することで、新たな付加価値を生み出すことである。また、原点に戻って両者の役割分担を再確認することも必要であろう。

当館の社会的役割（ミッション）として、「連携する博物館」「体験と発見の博物館」「地域づくりに貢献する博物館」などを掲げている。

つまり、NCCCAとの連携は決して場所貸しではなく、博物館も地域の課題解決のために貢献する義務と責任を負うという姿勢にほかならない。

当館の地域連携にとってNCCCAは、なくてはならない連携パートナーであり、今後も引き続き、「環境教育」と「博物館教育」が融合した実践型教育プログラムを積極的に展開していきたい。



エコまなぼ～作って遊ぼう～



エコまなぼ～パタパタづくり～



エコ寸劇 ～ほんまでっか温暖化～



さあ～ みんな集まれ～！



環境しりとりカルタ ～お手付き～



電気って、おもしろ～い！



へえ～！ 江戸時代ってこんな～

地球温暖化という緊急の話題を できるだけ多くの人のわかりやすく伝える

長崎県地球温暖化防止推進員長崎地区
上原 義之

「長崎県地球温暖化防止推進員」は、長崎県未来環境推進課からの委嘱を受け、地球温暖化防止センターとともに、地球温暖化防止の実践と住民への情報の提供と活動の普及を推進する団体です。

具体的には、住民や学校などからの依頼で出前講座をしたり、イベントなどで節電や省エネ、エコドライブなどの資料の配布をしたり、地球温暖化をテーマにしたエコ寸劇公演など、地球温暖化のことを知って、考えて、実践してもらうように活動しています。

歴史文化博物館で開催してきたのは、「エコまなぼ」と「奉行所夏まつり」です。

「エコまなぼ」は、地球温暖化や省エネ、節電などに関する楽しい遊びや、伝えたいことを、メンバーで話し合っ、これまでに実施したテーマは、「発電のしくみ」「電気を作ってみよう」「エネルギーのひみつ探検隊」「作ってあそぼう!!リサイクル」「竹取キャンドル物語」「昔あそび」などです。

「電気をつくってみよう」では、太陽光・風力発電模型、足こぎ発電、手回し発電など用意しましたが、足こぎ発電が子どもたちに大人気で行列ができるほどでした。

「作ってあそぼう!!リサイクル」では、新聞紙やペットボトルなど身近にあるものを利用し、クリスマス前には竹を使ってキャンドルづくり、子どもの日の前には新聞紙で「かぶと」を作り、新聞紙で「エコバッグ」、間伐材でのパタパタづくり、折り紙やペットボトルで作るかざ車で遊びました。

「昔あそび」では、カンカンとひもで作る缶ぼっくりや、「ケンパタ」など体を使って楽しく遊びました。

「奉行所夏まつり」では、エコ寸劇の公演、およびブースでは紙芝居やしりとり環境かるた、再現した江戸時代の部屋でくらし体験をしてもらいました。

エコ寸劇「ほんまでっか!温暖化」は「このままの暮らしを続けたらこんなことになる!かも?2050年の長崎」のサブテーマで、結構ウケて盛り上がりました。面白おかしくするために、吉本新喜劇風にし、ずっとけで転んだりメンバー10数人で、4~5回集まってネタ合わせやりハーサルをやりました。

「エコまなぼ」や「奉行所夏まつり」の遊びを通して、私たちも子どもたちも心の中に楽しい思い出として残り、歴史文化博物館もいいイメージで心に残っていると思いますので、またの機会に歴史文化にも興味を持ってもらえると信じています。

今後の課題は、地球温暖化は、緊急の課題ですが、分野もテーマも多く、捉え方がむずかしい面がありますが、できるだけ多くの人に、わかりやすく伝えることです。

いまは周辺学童保育に呼びかけ、80~100名ほど参加がありますが、保護者の方々や一般の親子の参加があると、家庭で共通の話題ができ、楽しく「エコまなぼ」が広がると思います。また、伝え方については、ことばだけでは難しいので、遊びやエコ寸劇で笑って楽しんで、身近なことに興味を持って、記憶に残り実践につながるように工夫していきたいと思います。

4. れきぶんのお雛祭り 特別展「我が名は鶴亭」関連企画 — 万寿山聖福寺大雄宝殿修復協会との連携 —

長崎歴史文化博物館
教育普及グループリーダー 竹内 有理

1. 実施概要

建物の老朽化が深刻な問題となっている万寿山聖福禅寺の修復に関わる支援活動を行っている市民団体、万寿山聖福寺大雄宝殿修復協会と連携して「れきぶんのお雛祭り」イベントと特別展「我が名は鶴亭」に関連したイベントを実施した。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
れきぶんのお雛祭り 「パッチワークキルトの世界」	2013年 2月20日(水)～3月3日(日)	場所：1Fエントランス 観覧無料	6,366名
れきぶんのお雛祭り 「ひなまつりコンサート」	2013年3月3日(日) 二胡とチェロの演奏 11:00～11:30 琴の演奏 13:30～14:15	場所：1Fエントランス 演奏：松林静風(二胡)／片田尚孝(チェロ)／筑紫若水会(琴) 観覧無料	208名
れきぶんのお雛祭り 栗ぜんざいのふるまい	2013年3月3日(日) 11:30～15:00	場所：立山亭 料金：500円	—
れきぶんのお雛祭り 「聖福寺界隈の史跡めぐり」	2013年 3月2日(土)、3月3日(日) 11:40～12:40	場所：博物館、聖福寺、西村家墓地 参加無料	80名
れきぶんのお雛祭り 「呈茶」	2013年 3月2日(土)、3月3日(日) 12:00～15:00	場所：聖福寺 料金：500円	—
特別展「我が名は鶴亭」関連企画 万寿山聖福寺国重要文化財指定 記念講演会	2016年2月28日(土) 10:30～12:00	場所：長崎歴史文化博物館ホール 定員：140名 聴講無料 演題「聖福寺ゆかりの画僧・鶴亭と若冲」 講師：狩野博幸氏(同志社大学教授)	150名
特別展「我が名は鶴亭」関連企画 聖福寺の秘宝 特別公開	2016年 3月1日(火)～3月6日(日) 10:00～16:00	場所：万寿山聖福禅寺(書院) 拝観料：300円	592名
特別展「我が名は鶴亭」関連企画 聖福寺見学会	2016年 3月5日(土)、3月6日(日) 14:00～15:00	場所：万寿山聖福禅寺 案内：宮川雅一氏(聖福寺大雄宝殿修復協会)、小峰光代氏(長崎史談会会員)	200名
特別展「我が名は鶴亭」関連企画 普茶点心	2016年3月12日(土) 11:30～13:00	場所：万寿山聖福禅寺(書院) 定員：36名 参加費：3,000円	36名

2. 実施内容

(1) 「れきぶんのお雛祭り」

万寿山聖福寺大雄宝殿修復協会と協働して以下の雛祭りイベントを開催した。

「キルト作家山口怜子 パッチワークキルトの世界」

1階エントランスにおいて、2013年2月20日から3月3日の期間、久留米市在住のパッチワークキルト作家、山口怜子氏による竹林をモチーフにしたキルト作品の展示と山口氏所蔵の内裏雛の展示を行った。3月2日と3日の両日は、聖福寺においても山口怜子氏のキルト作品と長崎の郷土玩具、古賀人形のお雛様の展示を行った。

ひなまつりコンサート

2013年3月3日の雛祭りの日には、長崎在住の二胡奏者松林静風氏とチェロ奏者片田尚孝氏による二胡とチェロの演奏と諫早を拠点に活動する筑紫若水会による琴演奏を行った。当日は博物館で栗ぜんざいのふるまいや聖福寺の史跡めぐりなども開催され、多くの人で賑わった。

聖福寺界隈の史跡めぐり

2013年3月2日と3月3日の二日間、博物館と聖福寺を会場とした雛祭りイベントの見学と聖福寺の境内を案内付きで見学する「聖福寺界隈の史跡めぐり」を実施した。また両日ともお抹茶の呈茶のサービス（有料）も行った。

(2) 特別展「我が名は鶴亭」 関連企画

2016年2月6日から3月27日まで特別展「我が名は鶴亭」を開催した。副題に「若冲、大雅も憧れた花鳥画! ルーツは長崎聖福寺」とあるように、聖福寺で黄檗僧となった長崎出身の画僧・鶴亭の画業を紹介する初めての展覧会だった。鶴亭にちなみ、展覧会の会期中、聖福寺においても当館と聖福寺大雄宝殿修復協力が協力して様々な関連イベントを開催した。

聖福寺の秘宝 特別公開

3月1日から3月6日までの6日間、聖福寺において同寺所蔵の涅槃図（県指定有形文化財）や初代住持・鉄心道胖が描いた「松竹梅図」、鉄心が使用した法具、頂相（肖像画）など未公開の秘宝を特別公開した。なお、秘宝の拝観については拝観料として300円を徴収した。縦5メートル、横3メートル以上もある巨大な涅槃図の展示にあたっては、貴重な県指定文化財でもあるため当館研究員が協力して作業にあたった。



れきぶん お雛祭り
キルト作家山口ゆき子
パッチワークキルトの世界

【キルト】
パッチワークキルト作品展
「5-17の性」と鶴亭展
期：2月20日(土)～3月3日(日)
場：長崎歴史文化博物館
料：500円(税込)

【キルト】
パッチワークキルト作品展
「春の華」と古賀展
期：3月1日(土)～3月5日(日)
場：長崎歴史文化博物館
料：500円(税込)

【雛飾り～ちりめんのおひなさま～】
期：3月2日(日)～3月6日(木)
場：長崎歴史文化博物館 2F 企画室
料：無料(入館料別途)

【3月2・3日の催し物】

聴く コンサート	食へる 栗ぜんざい	見る 聖福寺界隈の史跡めぐり
日：3月2日(日)	日：3月3日(日)	日：3月2日(日)～3月3日(日)
時：10:30～13:00	時：10:30～13:00	コース：聖福寺→聖福寺→長崎歴史文化博物館
場：長崎歴史文化博物館 2F 企画室	場：長崎歴史文化博物館 2F 企画室	場：長崎歴史文化博物館 2F 企画室
料：300円	料：300円	料：11,200円

【お抹茶のサービス】
期：3月2日(日)～3月3日(日)
場：長崎歴史文化博物館 2F 企画室
料：300円(税込)

【お抹茶のサービス】
期：3月2日(日)～3月3日(日)
場：長崎歴史文化博物館 2F 企画室
料：300円(税込)

長崎歴史文化博物館
〒850-0027 長崎県長崎市 2-1-1
TEL: 095-834-2100 FAX: 095-834-2101

聖福寺見学会

聖福寺についてより深く知ってもらおうと境内の建造物や墓地などを修復協力会のメンバーが解説しながら見学する見学会を行った。書院で行われている「聖福寺の秘宝 特別公開！」では、住職より涅槃図に関する詳しい説明をしていただいた。また急遽、庭の梅が見頃となっていた迎陽亭跡のお庭も見学させていただいた。見学会は2日間実施したが、両日とも100人に及ぶ参加があり大盛況だった。

普茶点心

黄檗宗とともに長崎を通じて日本に伝わった精進料理である普茶料理の一部を体験していただく普茶点心をいただく会を開催した。料理は京都の黄檗宗大本山萬福寺で「典座」と呼ばれる厨房の長をつとめた聖福寺住職・田谷和尚によるものである。長崎で普茶料理を体験できる機会はほとんどないため、展覧会が開幕する前に申込みが定員に達してしまい、普茶料理に対する興味関心の高さがうかがわれた。



3. 成果と課題

2013年3月に実施した雛祭りイベントは、聖福寺大雄宝殿修復協力会と連携して行った最初の事業となった。聖福寺は博物館から徒歩数分ほどの距離にあり、両場所を往き来することも容易にできる。修復協力会は、建物の劣化が進み保存の危機が危ぶまれている聖福寺について、より多くの人々の理解を得ることと、修復のための資金を募金を通じて集めることを目的として活動している。協力会にとって博物館と連携して事業を行うことは、それらの目的の実現にもつながることから、協働で事業を実施することに賛同していただいた。博物館にとっては、雛祭りイベントを単独で行うよりも、イベントを盛り上げることができるだけでなく、PR効果や集客面でも効果的であると考え協力会と連携してイベントを企画、実施することにした。

2016年に開催した特別展「我が名は鶴亭」の関連行事として行った各種イベントは、雛祭りイベント以来、本協力会との3年ぶりの協働事業となった。本展示会は画僧・鶴亭ゆかりの寺である聖福寺について多くの人々に知ってもらう機会となるだけでなく、現在同寺が直面している深刻な問題についても理解を得る絶好の機会でもある。博物館にとっても展示会や博物館に対する理解者や支援者を増やすことは重要な課題であるため、同協力会に本展示会に対する協力・支援とイベント等の連携について要請した。このようにして両者の意見が一致し、協働して事業に取り組むことになった。

秘宝の公開や聖福寺の見学会、普茶点心など、どの事業も多くの方に参加いただき、市民の関心の高さを改めて実感することができた。協力会の宣伝力も奏功して、展示会への動員もはかることができた。寺と博物館が近接した場所に立地していることもこれらの行事を円滑に進めるのに役立ったといえる。近い距離にあるにもかかわらず、それまで人の行き来が少なかった博物館と聖福寺を共通のイベントによって結ぶことで、人の流れ（回遊性）が生まれたことは非常によかった。聖福寺という地域にある文化財に目を向けてもらい、その価値を再認識してもらう機会となったのではないだろうか。これも地域の歴史文化を伝え継承していく博物館の重要な役割といえる。



博物館は聖福寺の関連行事を開催するのに きわめて有効な場所である

万寿山聖福寺大雄宝殿修復協会
会長 出口 喜男(恵山)

長崎市玉園町にある万寿山聖福寺は、江戸時代、黄檗宗開祖・隠元禅師から認められた名僧・鉄心道胖が長崎奉行の援助を得て創建した黄檗宗寺院で、興福寺・福濟寺・崇福寺のいわゆる唐三箇寺とともに長崎における日中交流の特別の歴史を今に物語る貴重な宝地です。

正徳5年(1715)に改築された本堂・大雄宝殿は、原爆で破損しその後修繕はなされたものの本格的修築の時期を迎えています。しかし、黄檗宗という寺院の性格上、檀信徒の数が少なく、その資金調達は容易ではありません。

平成22年(2010)聖福寺に親しむ会と長崎史談会が中心となり、さだまさし氏、「聖福寺協会」に集う茶道関係の方々、長崎在住の華人・華僑の人々、学者・有識者などが呼びかけ人となって、万寿山聖福寺大雄宝殿修復協会が結成されました。平成24年(2012)には、私がかからずも会長に選任され、現在まで、さまざまな広報活動と募金活動を展開しています。

その一環として、平成25年(2013)には、長崎歴史文化博物館の全面的な協力を得て、聖福寺境内と同博物館において「お雛祭り」を開催しました。聖福寺には久留米在住の世界的に活躍中のキルト作家・山口怜子先生のパッチワークキルト作品「布万華」と古賀人形を展示し、参観者に呈茶(抹茶と菓子)を行いました。

博物館では同先生の作品「5・17の竹」と雛人形(5段飾り)、さらには「布あそび萌」主宰者・増永須賀子先生の協力を得て創作雛人形を展示。開会当日には松林静風・片田尚孝両先生による「二胡とチェロの演奏」と筑紫若水会による「琴の演奏」があり、大いに会を盛り上げていただきました。あわせて、栗ぜんざいの接待を行い来館者共々、心和むひとときを共有しました。

また、開会日前日及び当日には博物館を出発し、永昌寺や聖福寺を案内する「聖福寺界隈の史跡めぐり」を実施し、多くの参加者に喜んでいただきました。

聖福寺と博物館は、わずか300メートルの近距離にあり、博物館は聖福寺の関連行事を開催するのにきわめて有効な場所であることが、はっきり実証されたのです。そこで、平成28年(2016)2~3月開催の同館開館10周年記念特別展「我が名は鶴亭一若冲、大雅も憧れた花鳥画・ルーツは長崎聖福寺」に際しても、聖福寺において「聖福寺の秘宝・特別公開」(県文化財「涅槃図」その他)、「聖福寺見学会」、「聖福寺普茶点心(定員36人)」を実施いたしました。

あわせて、博物館においては修復協会主催で同志社大学教授・狩野博幸先生特別講演会「聖福寺ゆかりの画僧・鶴亭と若冲」の開催を通して、平成26年(2014年)大雄宝殿のほか天王殿・山門・鐘楼も加えた4建造物が一挙に国の重要文化財に昇格したことを記念すると共に、これを機に聖福寺や組織の拡充を求められている協会への県民・市民各位のご理解・ご協力をさらに深めていくことにしています。

3. 近隣自治体との連携

1. 奉行所夏まつり・奉行所もちつき — 上町自治会との連携 —

長崎歴史文化博物館
教育普及グループ 古豊 裕次朗

1. 実施概要

長崎歴史文化博物館では、毎年夏に上町自治会をはじめとする近隣自治会、当館ボランティアの協力で「奉行所夏まつり」、年末には上町自治会と合同で「奉行所もちつき」を開催している。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
長崎奉行所夏まつり	2013年8月10日(土) 17:00~21:00	場所: イベント広場	863名
長崎奉行所夏まつり	2014年8月2日(土) 16:40~20:30	場所: 1Fエントランス ※台風のため	492名
長崎奉行所夏まつり	2015年8月8日(土) 16:40~20:30	場所: イベント広場	900名
奉行所もちつき	2013年12月15日(日) 10:00~ ※お餅がなくなりしだい終了	場所: 奉行所階段下	180名
奉行所もちつき	2014年12月23日(火祝) 11:00~ ※お餅がなくなりしだい終了	場所: 奉行所階段下	224名
奉行所もちつき	2015年12月23日(水祝) 11:00~ ※お餅がなくなりしだい終了	場所: 奉行所階段下	364名



2. 実施内容

(1) 奉行所夏まつり

毎年夏の恒例行事となっている奉行所夏まつりは開館翌年の2006年から始まり、昨年（2015年）の夏まつりで10回目を迎えた。今日では、博物館と地域住民との交流の場となっており、近隣の自治体や一般市民の方との連携・交流を通じたイベントで、継続的に実施している。当館館長を実行委員長とし、職員や上町自治会をはじめとする近隣自治会、ボランティアが実行委員会として夏まつりを運営する現在の形式になったのは2011年からである。それ以前は博物館職員やスタッフで行っていたため、規模も小さく集客の面でも大きな違いがあった。

2013年からは上町自治会を筆頭に近隣自治会がさらに協力していただき、ソーセージや焼きそば、カレーなどの販売、ストラックアウトなどのアトラクション、定番となっている中国獅子舞の披露やバンド演奏、フラダンスの披露、お楽しみ抽選会などのステージイベントと、開館当初の夏まつりと比べると規模も大きく地域住民にとっても馴染み深いイベントとなっている。

(2) 奉行所もちつき

博物館でも何回かもちつきは行っていたが、近年では人員や道具の調達など開催するにあたり難しい部分も多く開催していなかった。夏まつりにご協力いただいている上町自治会の協力により、合同で奉行所もちつきを開催している。

当館と上町自治会とでつく分を分け、上町自治会分は自治会の方々がつき、博物館分は当館職員やボランティア、来館者の方についてもらっている。つきあがったお餅は自治会に配り、来館者へもふるまっている。

また、博物館の奉行所展示室に飾る鏡餅は、上町にある栗饅頭で有名な田中旭栄堂さんにつきあがったお餅で作っていただいている。

3. 成果と課題

上町自治会と連携して奉行所夏まつりや奉行所もちつきを開催することで、場所の確保や人員の動員など相乗効果があり、どちらのイベントも毎年多くの方に参加していただいている。上町自治会との繋がりや他のイベントにご協力をいただいたり、自治会の子ども達に動員をはかっていただいたりと、夏まつりやもちつき以外にもご協力をいただいている。

どちらのイベントも多くの方に参加していただいているが、もちつきについて上町住民のためのもちつきと、博物館として来館者向けのもちつきの側面があり、合同で始めた当初はその部分で多少混同があった。当館と上町自治会にしても全員の顔を把握していないので、住民なのか、職員なのか、来館者なのか区別がつかない場面があった。昨年末行ったもちつきでは、上町自治会は自治会のTシャツ、博物館職員は腕章の着用で対応し、混同が起きないように努めた。

また、夏まつり、もちつきともに屋外イベントのため、天候に左右される。実際、2014年に行った夏まつりでは台風の影響で開催自体があやぶまれたが、交通機関も動いていたため屋内で開催した。悪天候となっても開催できるのは博物館の強みであり、近隣の夏まつりが中止となっていくなかで、夏まつりを楽し

みとしている子ども達が博物館まで足を運んでくれたのは非常に大きい。

今後ともお互いの利点を活かして、夏まつり、もちつきだけでなく、今年のおくんちでは上町が踊町として参加されるので、長崎歴史文化博物館も協力していきたい。



博物館との連携が町の活性化へとつながる

上町自治会
会長 津田 浩哉

上町は、昭和三八年の町名変更によって誕生した町である。それまで私共の住んでいる大半は東中町となっていたが、そこに東上町の半分、小川町、八百屋町、内中町の一部が合併し現在の町となった。この辺りは江戸時代、奉行所や長崎会所が置かれ、政治・経済の要として栄えた由緒ある場所であった。現在は長崎歴史文化博物館、小学校、市役所、放送局などが集まる地域に位置する閑静な住宅街である。

近年は住民の高齢化が進み自治会活動の先行きが危ぶまれる中、「住民の交流」・「高齢者と子どもたちの安全・安心」・「おくんちの伝統継承」を目的として、四年前に青年部と婦人部を結成した。この青年部を中心として、資源回収・町内清掃・防犯パトロールなどを定期的に行うようになり、自治会活動が活発になってきている。

そのような中、長崎歴史文化博物館が地域と一体となった活動をしている事を知り、上町自治会も長崎歴史文化博物館の「奉行所夏まつり」に参加したり、合同で「奉行所もちつき」を行っている。

「奉行所夏まつり」には、中国獅子舞の披露（リーダーは上町在住）、ソーセージ・ホットドッグの販売（明治屋ハムは上町本社）、カブト虫・クワガタ虫類の販売（趣味で飼育をしている上町住人がいる）、子ども向けのゲームコーナー（上町自治会青年部）、カレー・焼きそば販売（喫茶銅八銭は上町）と住民の協力により出演・出店をしている。一つの町だけで夏まつりを開催するとなると大変な労力を必要とするが、一緒に参加させていただくことで、容易に夏まつりが可能になり、多くの住民が参加し楽しむことが出来る。「奉行所もちつき」においても、町内単独でするより参加者も増え、大々的となり、楽しみも倍増している。

このように長崎歴史文化博物館が地域の核となり、様々な活動を通し情報を発信していただけることにより、上町自治会活動が今まで以上に広がりをもち、町の活性化へとつながってきている。





4. 学校との連携

1. 琴の演奏

— hミュージック・創成館高等学校琴部、
鎮西学院高等学校箏曲同好会との連携 —

長崎歴史文化博物館
教育普及グループ 古豊 裕次朗

1. 実施概要

お正月イベントの恒例行事の一つで、hミュージックの岸川玲子氏を窓口に創成館高等学校琴部、鎮西学院高等学校箏曲同好会に出演いただいている琴の演奏を開催している。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数
新春初弾き	2008年1月5日(土) 11:30~12:00/14:00~14:30	場所：1階エントランス 出演：hミュージック(岸川玲子氏他) 観覧無料	125名
新春初弾き ～箏とフルートの調べ～	2009年1月4日(日) 11:30~/13:30～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック(岸川玲子氏他) 観覧無料	157名
新春初弾き ～箏とフルートの調べ～	2010年1月11日(月祝) 11:30~/13:30～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック(岸川玲子氏他) 観覧無料	103名
新春初弾き ～箏とフルートの調べ～	2011年1月8日(土) 11:30~/13:30～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック(岸川玲子氏他) 観覧無料	123名
新春初弾き ～箏とフルートの調べ～	2012年1月9日(月) 11:30~/13:30～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック(岸川玲子氏他) 観覧無料	85名
新春初弾き ～箏とフルートの調べ～	2013年1月6日(日) 11:30~/13:30～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック、鎮西学院高等学校箏曲同好会、創成館高等学校琴部 観覧無料	83名
新春初弾き ～箏と和太鼓の調べ～	2014年1月5日(日) 11:30~/13:00～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック、鎮西学院高等学校箏曲同好会、創成館高等学校琴部 観覧無料	120名
新春初弾き ～箏とフルートの調べ～	2015年1月4日(日) 11:30~/13:00～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック、鎮西学院高等学校箏曲同好会、創成館高等学校琴部 観覧無料	99名
新春初弾き ～箏とフルートの調べ～	2016年1月10日(日) 11:30~/13:30～	場所：1階エントランス 出演：hミュージック、鎮西学院高等学校箏曲同好会、創成館高等学校琴部 観覧無料	79名



2. 実施内容

例年、お正月の4・5日あたりか成人の日前後に、午前午後各1回ずつ行っている。2008年から2012年までは諫早を拠点に活動している邦楽グループ、hミュージックに出演していただいていたが2013年からは創成館高等学校琴部、鎮西学院高等学校箏曲同好会にも出演していただくようになり、お正月の恒例イベントとして定着してきた。高校生にとっては新年最初の発表会となっている。

3. 成果と課題

お正月ならではのイベントで恒例行事となっており、参加者の方々には好評を得ている。しかし、ここ数年は集客が減ってきている。他のお正月イベントをみても琴の演奏を含め、大人向けのは参加者数が落ち込んでいるので、広報宣伝の部分に力を入れていきたいと思う。また、同日に他のイベントと合わせて開催することで相乗効果に期待している。

今年実施した新春初弾きでは、最後の曲目で東日本大震災で被害を受けた福島（東北）を応援するチャリティソングを演奏し、参加者と出演者が一体となって合唱を行なった。参加者は琴の演奏を見たり、聞くだけでなく、一緒になって参加することで、震災から5年を迎えた被災地への想いを会場全体で共有することができたと感じている。



箏曲・邦楽をもっと身近なものとして 感じてもらうために

hミュージック
代表 岸川 玲子

私たち、hミュージックが博物館での演奏をさせていただけるようになって、早くも十年がたとうとしています。

私たちにとって、その年初めての演奏会にあたる、「新春初弾」は特別な気持ちを込め演奏をさせていただいております。

最近の日本では、箏曲を聞く機会はほとんどなくなってきたということは、とても残念な事だと感じていました。そんな時にこの様なお話を頂き、少しでも箏曲を身近なものに感じてもらえる、願ってもない機会でした。

そのため、身近な楽器である、フルートや太鼓との合奏の実施。また、県内高校の箏曲クラブ出演など工夫を凝らしてまいりました。

現在私は、主に諫早市内の小・中・高校クラブと、自宅を中心に指導をしております。しかしながら、学生はクラブ活動の一環であるため、その後ほとんど続けることはありません、またクラブ活動をしている学校自体も少ないのが現状です。

諫早は「六段」の調べ発祥の地として、毎年演奏会を開催しておりますが出演者、観覧者共に年々減少していることも事実です。

そこで私は、箏曲のみならず、邦楽をもっと身近なものとして感じてもらえるよう、博物館での講座や体験など、実際楽器に触れる機会を作っていただけることに期待をしています。



2. 書道

—— 長崎県立長崎西高等学校書道部との連携 ——

長崎歴史文化博物館
教育普及グループ 古豊 裕次朗

1. 実施概要

長崎歴史文化博物館で毎年お正月イベントとして行っている書初めと合わせて、長崎県立長崎西高等学校書道部の協力でパフォーマンス書道を開催した。

イベント名	開催日時	開催概要	参加者数 (書初め/パフォーマンス書道)
書初め & パフォーマンス書道	2014年1月2日(木) ・書初め…13:00～14:30 ・パフォーマンス書道…11:30～/15:00～	場所：1階エントランス 観覧・参加費無料	95名/120名
書初め & パフォーマンス書道	2015年1月2日(金) ・書初め…13:00～14:30 ・パフォーマンス書道…11:30～/15:00～	場所：1階エントランス 観覧・参加費無料	78名/112名
書初め & パフォーマンス書道	2016年1月2日(土) ・書初め…13:00～14:30 ・パフォーマンス書道…11:30～/15:00～	場所：1階エントランス 観覧・参加費無料	40名/139名

2. 実施経緯

当館では、毎年お正月に書初めを行っており、新年より来館していただいたお客様に抱負などを毛筆でしたためていただくイベントを1月2日に開催している。例年、講師の方をお招きして参加者への指導などを行っていたが、地域との連携を深めていくなかで県内市内の学校と連携してのイベントも博物館で開催したいと考えていた。普段学習の場として活用している博物館で、教わる側の学生が新年の書初めでは教える側としてイベントを開催し、教育普及の点からも博物館活用の形が広がればと企画した。

学生が書初めの指導を行うにあたり、来館者が観覧できるイベントでお正月や書道に合ったイベントと合わせて開催することにした。当時から話題になっていた高校生が行うパフォーマンス書道に注目し、長崎県立長崎西高等学校書道部がパフォーマンス書道に力を入れているとのことで実施することとなった。



3. 実施内容

(1) パフォーマンス書道

午前と午後に各1回ずつ行っており、1回目のパフォーマンスでは高校生達が選曲したいいきものがかりやE-girlsなどの曲に合わせて、1人1枚150cm×150cmの紙に、その年によって違うが4～5人の生徒が思いのこもった一字や今年の目標、好きな言葉を書いた。2回目のパフォーマンスでは、タテ360cm×ヨコ540cmの1回目よりさらに大きな紙に5～6人の生徒が今年の目標などを一斉に書き始め、一つの作品に仕上げた。1回のパフォーマンスは約10分で、書き上げた後に自分が書いた文字や言葉について解説してもらった。

パフォーマンス書道でできあがった作品は、翌日から成人の日まで博物館のエントランスで展示を行った。高校生たちがしたための作品は、博物館で行っているお正月イベントに華をそえており、毎年作品展示までが一つのイベントとなっている。

(2) 書初め

書初めはパフォーマンス書道と合わせて行うようになってからは、パフォーマンスの合間の時間に開催している。先ほどまで躍動感あふれるパフォーマンスを行っていた同じ場所で、座卓と座布団を準備し静かな時の流れの中で来館されたお客様に今年の抱負や好きな言葉などをしたためていただく。文字や書き順が分からなかったときは、パフォーマンスを行った生徒が教えてくれる。このイベントは参加無料で、老若男女問わず参加できるイベントとなっている。



4. 成果と課題

新年に今年一年の抱負をしたためる、お正月にふさわしい伝統を継承するイベントとして書初め、曲に合わせて躍動感ある書道を魅せるパフォーマンス書道を長崎県立長崎西高等学校書道部との連携で開催して、今年で3回目になる。

書初めは子どもからご年配の方まで参加でき、例年参加者には思い思いの言葉をしたためてもらいながら、楽しんでいただいている。親子で参加されたり、三世代で参加されている方もおり、お正月を彩るイベントだけでなく教育普及としても関連するイベントで参加された方からも好評を得ている。しかし、書道に対して汚れるのが嫌だとか字が上手く書けないなどマイナスのイメージを持つ方も多く、ここ数年は書初めの参加者が少なくなっている。来館者の方の多くは興味を示してくださるので、そこから少しでも参加していただけるよう更なる工夫が必要である。

一つの試みとして、行っているのがパフォーマンス書道である。1・2年生が新年最初にしたためる文字からBGMまで、自分たちで一から作り上げたパフォーマンスは躍動感があり博物館のお正月イベントに華やかさを加えてくれている。3回目となると、最初にパフォーマンスを行った1年生が2年生、3年生となり、後輩たちに博物館のイベントが伝わり、後輩たちは来年は自分たちがパフォーマンスを行うと意気込んでいる。こちらのイベントも教育普及としても関連できるものとなってきている。新年最初のイベントとあって力をいれているが、宣伝不足は否めない。

毎年、博物館では諏訪神社への参拝者へピラ配りを行っており、地域の人々に日本の伝統文化である書道への興味関心をもっていただけるよう努めていきたい。



地道に練習を重ね、 学んできた全てのもを出し尽くす

長崎県立長崎西高等学校
書道部顧問 駒田 真衣

私たち長崎西高校書道部は、1年生5名、2年生5名の計10名で活動しています。年間活動は、11月に行われる県の揮毫大会での上位入賞を目標に、中国の古典や日本の古筆の臨書を通して作品を制作します。入学したばかりの1年生は、これまで見たことがないものばかりですので、篆書・隸書・草書・行書・楷書の5書体と仮名の説明をうけた後に、実際に古典作品を見て、「これを書きたい」と思った作品を約8か月間書くこととなります。夏には、県の合宿があり、県内の書道部の生徒が集まる2泊3日の合宿に参加しています。日ごろ、他の学校との交流会がほとんどないので、とても良い機会になっています。他の学校の作品を見て、「もっと頑張らないと」と刺激を受けることができるので、この合宿を機に練習量が増え、自主練習をする生徒も出てきています。揮毫大会では、次年度九州大会出場1名、優秀賞4名という成績を残すことができました。

校内では、5月と8月に書道パフォーマンスを行っています。5月の3年生引退パフォーマンスでは、これまでの活動を通して学んできた全てのもを出し尽くせるように、何か月も前から構成や音響、文字の練習を時間をかけて行っています。8月の文化祭の時には、6m×10mの大きな紙に1・2年生がパフォーマンスを行います。1年生にとっては、初めてのパフォーマンスになるので、練習では新聞紙を何枚も継いで納得がいくまで練習をしています。最初は自分の担当する文字を書くだけでいっぱいになり、まわりとのバランスや音楽に合わせることがなかなかできませんが、お互いに意見を出し合い、回数を重ねるうちにどんどん変わっていきます。

長崎歴史文化博物館でのパフォーマンスは、生徒がとても楽しみにしている活動の一つです。校内でパフォーマンスをすることはあっても、校外で地域の方々の前でパフォーマンスをすることはほとんどないので、書く文字や音楽等は慎重に選んでいます。2年生は長崎歴史文化博物館で行う最後のパフォーマンスという思いもあり、感慨深いものがありました。パフォーマンス後「すばらしいですね」と声をかけてくださった方がいらっしゃいました。私たちは、まだまだ未熟ではありますが、見ている方に感動していただけることができ、今後の活動の力になりました。これからも地道に基礎基本の練習を重ね、日ごろ応援していただいている方にパワーを与えることができるような、高校生らしい活動を続けて行きたいと思えます。





- 執筆者一覧
- 竹内 有理（教育普及グループリーダー）
一瀬 勇士（教育普及グループ研究員）
古豊裕次郎（教育普及グループ研究員）
村嶋寿深子（OMURA室内合奏団芸術監督）
森山 達郎（長崎県新演奏家協会事務局長）
岡 珠子（親子で聴く音楽会レガリーノ代表）
高崎 杣蓉（小原流長崎支部支部長）
原口美千代（表千家同門会長長崎県支部事務長）
山口 祥泉（文人流知足会家元）
森 昇（長崎節木塾元塾長）
岩崎 直哉（長崎町人町プロジェクト）
上原 義之（長崎県地球温暖化防止推進員）
出口 喜男（万寿山聖福寺大雄宝殿修復協力会会長）
津田 浩哉（上町自治会会長）
岸川 玲子（hミュージック代表）
駒田 真衣（長崎県立長崎西高等学校書道部顧問）
- 企画・構成 竹内 有理
編 集 一瀬 勇士
デザイン インテックス

長崎歴史文化博物館 教育実践報告書
－ 市民と連携した教育実践 － 2005～2015

発行日：2016年3月31日
発 行：長崎歴史文化博物館
〒850-0007 長崎市立山1-1-1
Tel 095-818-8366
印 刷：インテックス



長崎歴史文化博物館
Nagasaki Museum of History and Culture

